



名古屋オペラ協会

創立十五周年記念誌

一九九七年十一月

# 名古屋オペラ協会

## 創立15周年記念誌





## 創立15周年に想うこと

名古屋オペラ協会

会長 横井園生

いつの間にか15年の月日が経ちました。激しい時の流れです。今日の著しい科学技術の進歩や、大量消費時代に於ける社会の変質によって、今や従来の価値観や道徳観が大きく変わりつつあります。且つては純粹であった日本的感性や精神文化までも、異質なもののへ様変わりしようとしています。そのなかにあって、私達の「美しい日本オペラの創造」という創立の基調精神は、今日に至るも微動だにせず、生成発展してまいりました。美しい日本の国と民族の誇りとを、未来に向けて伝えていかねばならぬという義務の観念が、常に意識の底に流れていればこそ、よく、風雪に耐えて今日を築くことができたのであります。

私達は数々の日本オペラを上演してきました。「芸に生きる者の非情の魂」「絶対的な美に対する自己犠牲」そして「移りゆく時代のなかに、崩壊してゆく家族の姿」など、様々なドラマを通して、人間性の美しさと人生の無常を見てきました。なかでも旗挙げ公演の「夕鶴」は、永遠に、深く私達の心に残っています。貧しいながらも楽しかった与ひょうとつうの平和な暮らしが、与ひょうの金銭への欲望のために崩れてゆく。やがて去ってゆくつうに向けて叫ぶ与ひょうの悲痛な声が、夕焼空に空しくこだまして……。あの感動はどこからくるのだろうか。素朴で正直な与ひょうが、飽くなき物質への欲望のために、だいじな心まで失ってしまった。今日の日本の姿がここに象徴されている想いが致します。去る九月七日、亡くなったあのマザー・テレサが、国連に於ける会議の席上で「貧しいことは美しいこと」と言った言葉を新聞紙上で知りました。私は深い感銘を受けました。

いま、私達がなすべきことは、日本人の愛、魂、道徳、克己など、これら生活のなかに息づいてきた伝統的な美質を、オペラを通して人々にアピールすることです。諸君が歌うオペラの一ふしに、懐しい日本人の想いがこもっていなければなりません。また、たとえば、白秋の「からたちの花」のなかに、日本特有の抒情の本質を汲みとることを忘れてはならないのです。

十五周年の記念すべき時にあたり、歴代の委員長と役員の方々、そして凡ての歌手の皆さんの、情熱と献身に対し、心からの賞賛を贈ります。そして協会を支えて下さった公的機関や、多くの聴衆の方々に対して、衷心より厚く御礼を申し上げます。また協会員の御家族の、陰ながらの御協力があつたればこそ、歌手たちは存分に舞台上で活躍することができました。改めて感謝の意を表したいと思います。

私達はこの15周年を契機として、更に大いなる希望をもって、明日に向けて力強く第一歩を踏み出そうではありませんか。



## 創立15周年によせて

名古屋オペラ協会

委員長 福田 富子

名古屋に日本のオペラを創る団体をおこそうと、横井園生先生、大賀寛先生が中心となり、運動を始められ、それに賛同する同志に声をかけ、準備のための会合を重ね、発足するまでに一年はかかったように記憶しております。横井先生を初代委員長、竹本正俊先生を事務局長に、県立芸大より(当時)小林秀雄先生と神田詩朗先生、教育大より(当時)川島博先生、名芸大より津田孝雄先生、名古屋音大より(当時)大賀寛先生と私がメンバーになって、運営委員会を構成し、東山のマンションの一室に集り、毎回深夜まで協議を重ねた事がついこの間のように思い出されます。そしてこの会は、「日本のオペラを主体とする音楽芸術の普及、向上を計り、芸術文化の発展に寄与する…」という目的をしっかりと打ち出し、活動を開始致しました。

会員、準会員、第一期研究生の募集を行い優秀な人材を集め、昭和58年に「夕鶴」で旗挙げ公演を行いました。それから年一回の本公演は休むことなく続けられ、今秋創立15周年記念公演として地元発信のオペラ「琵琶白菊物語」を上演することが出来ました。

会場も、名古屋市民会館大ホールから始まり、愛知県文化講堂、名古屋市芸創センターそして平成5年には愛知県芸術劇場が完成し、開館記念事業に加えて頂き「春琴抄」を上演したことは記憶に新しいところです。平成7年に「袈裟と盛遠」平成8年「額田女王」と次々と会場に合わせた大規模な舞台上で立派にオペラを上演出来ましたことは、指揮星出豊先生、演出の栗山昌良先生の熱心な御指導があった事を忘れてはいけないと思います。

又、第二回公演より、指揮をお願いしました古谷誠一先生も、オペラのみならず、ナゴヤシティ管弦楽団(現セントラル愛知交響楽団)のオーケストラで「オペラアリアの夕べ」「オペレッタの夕べ」「バロックの夕べ」又は、準会員による「霊媒」「魔笛」等、素敵なアイディアを提供して下さい、きめ細かに御指導頂きました。

また、公演の度に、練習場を探し求めておりましたが、この悩みも、昨年6月伊藤惣介氏により稽古場として「スタジオあい」を建てていただき、安心して練習に打込めるようになりました。こうした先生方のオペラ協会に対しての惜しみない御協力のお陰で、今日を迎えることが出来ましたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。

最近、立派な会場が出来たことで、数多くの外国のオペラも来日し、鑑賞出来ることは有難いことと思います。また、愛知県、名古屋市の各事業団主催でオーディション形式のオペラを毎年上演しています。歌手にとって力を発揮出来る場が増え、歌も演技も向上してまいりました。東京よりオペラ事情は十年遅れていると感じた時がありましたが、差は年々少なくなってきたように思います。

ただ、一番頭を痛めていることは、会場が立派になったことにより、舞台の制作費が大変な額になることです。それが出演者、及び会員全体の負担として重くのしかかってくる大きな悩みとなっています。経済的なバックのない私共任意団体が、これからも活動を続けてゆくためには、この問題は大きな課題です。15年前と比べますと、びっくりする程の経費がかかっております。各財団、県、市より助成して頂けることで、やっと公演を続けておりますが、何とか少しづつ解決の方法を見つけねば、ということがいつも頭にあります。会員、準会員、研究生の皆様の多大な協力で持ちこたえております。

何はともあれ、一年一年良い舞台を作ることを心がけてきました。そして多くの観客に見て頂いたことは、本当に有難いことと思っております。これからも、会全体が一致団結して、可能な限りの良い作品を作るよう、頑張っけてゆきたいと決意しております。何卒各方面の皆様方もよろしく御支援下さいますようお願い申し上げます。

---

# 祝 辞

---

愛知県知事 鈴木 礼 治

---



名古屋オペラ協会が創立15周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

人々が、真に豊かな生活を実現していくためには、物質的、経済的のみならず、心のゆとり、潤いといった精神的充足感を得られることが不可欠であり、芸術文化の意義は一層重要視されております。こうした中で、音楽は、ますます私たちの生活に密着したものとなっており、その中でもオペラは、音楽性と演劇性を併せ持つ総合芸術として、その人気は年々高まっております。こうした状況は、我が国を代表するオペラ劇場を有する本県にとりまして、大変喜ばしく思います。

名古屋オペラ協会は、昭和57年の設立以来、オペラに馴染みの薄い方にも理解しやすく、親しみをもてるように、「夕鶴」、「春琴抄」といった日本の創作オペラの上演を続けてこられるとともに、オペラ歌手の人材育成にもご尽力されるなど大きな足跡を残してこられましたことは、当地域の誇りとするところでございます。

また、歴代の指導者に優れた人材を得て、着実に水準向上を図られ、発展してこられましたことに心から敬意を表する次第でございます。どうか今後とも、なお一層のご活躍をいただき、当地域の音楽文化の向上にご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、名古屋オペラ協会のますますのご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

---

# 名古屋オペラ協会15周年を記念して

---

財団法人名古屋市文化振興事業団

理事長 栗田大六

---



このたび名古屋オペラ協会におかれましては創立15周年を迎えられましたこと心からお慶び申し上げます。

思えば昭和58年、横井園生先生を中心に、この地域における音楽芸術の普及向上をはかることを目的として息吹をあげられてから、毎年活発な公演活動を展開してこられました。

第1回の『夕鶴』以来、毎年定期公演を行い、日本オペラに継続して意欲的に取り組んでこられ、オペラに対する人々の関心を高めるとともに、オペラに関する知識、技術の普及に務められ、人材育成についても多大な功績をあげられましたことは、深く敬意を表するところでございます。

また、今年15周年記念公演として行われた『琵琶白菊物語～槐と師長』は、名古屋市民芸術祭主催事業として、この地域にゆかりのある琵琶の名手「藤原師長」の物語に取り組み、感動的なすばらしい舞台を作り上げられました。

私ども名古屋市文化振興事業団では、「文化の香り高いまちづくり」という基本理念に基づき、歴史と伝統を生かした個性豊かな魅力ある市民文化の創造をめざして、様々な事業を展開しておりますが、オペラをはじめとする芸術文化の発展には、名古屋オペラ協会の皆様をはじめ市民の皆様方の積極的な活動とお力添えが必要でございます。

どうか今後ともますますのご精進を重ねられ、名古屋はもちろん日本の文化振興の担い手となっていただきますよう心からご期待申し上げます。

最後になりましたが、21世紀に向け、福田富子委員長をはじめとする会員の皆様のますますのご活躍とご発展をお祈り申し上げまして、お祝いのことばといたします。

---

## 創立15周年を祝って

---

(財)日本オペラ振興会常任理事

日本オペラ総監督 大賀 寛

---



横井園生さんから、「名古屋で日本オペラの公演を目的とする団体を作りたいのだが」と相談を受けたのが昭和57年春の事でした。当時私は昭和33年より日本オペラ協会(現<財>日本オペラ振興会)を主宰、活動を続けていたのですが、その日本オペラへの想いに共感されての事でした。

慎重かつ綿密な横井さんと、後に竹本正俊さんに参加いただき、一年間にわたって会議を重ねた末、「理念の確認」、「将来の運営、組織の在方」を念頭に定款を作制、会員組織として、昭和58年名古屋オペラ協会が誕生したのです。そして初代横井さん、次代川島博さん、現福田富子さんと、定款に基づく着実な運営が歴代の委員長を中心に運営委員、会員の総意にそっておこなわれ、現在の安定となっています。私も現在相談役、監修として、東京の日本オペラ協会との緊密な提携のもと、定期公演の総てに参加、名古屋オペラ協会と苦楽を共に出来たことは懐しい想いとなっています。

演奏面においても、栗山昌良氏、星出豊氏と日本オペラ集で最高のスタッフを迎え、また芸術劇場というすばらしい劇場に恵まれ、急速な成長を示しています。今年の「額田女王」の公演は極めて次元の高い舞台となり、観客に大きな感銘を与えました。「すみずみに至るまでの演奏の充実、確かな日本語唱法は、明確な意識による継続の力、実りです。次の目標は法人化ですね」と終演後感激さめやらぬなかで福田さんと語ったものです。

今年10月新国立劇場が開設、国際的な視野のなかであらたなオペラ活動の展望が想像されますが、国際化とは画一化することなし、特色を持つ事です。世界へ向けて発信可能な名古屋オペラ協会の発展は大いに期待されます。

創立15周年記念心より、お祝い申し上げます。これからも益々実りのある歴史を築きあげて下さい。



## 理想に向っての 15年だと思っています

演出家 栗山昌良

長くて短い様な、そして将来を見渡す時、これからどうして行けばよいか、どうなって行くのか、これが日本のオペラ活動に携っている誰もが内心感じている心境でしょう。日本のオペラは、声楽家の声楽家に依る声楽家の爲の活動でしたし、今も大部分がそうだと思います。然し世間のオペラ愛好者は、そんな事は意に介しておりません。創る側と観賞する側とのギャップを解消出来るかどうかが大問題なのです。名古屋には素晴らしい正身正明のオペラ・ハウスが出来て5年経ちました。東京には新国立劇場が華々しく開場します。然し、オペラの制作の実体、観賞者の状況は殆んど変化を見せません。オペラは制作する立場の視点の持ち方が問われているのが、現在の日本のオペラ制作の現実認識であらねばなりません。“名古屋オペラ協会”もその枠の中にあるのでは——。時代を劃す創造こそ存在理由となる現在、理想を高く掲げて進まれる事を。

\*\*\*\*\*



## 名古屋オペラ協会 創立15周年おめでとうございます

指揮者 星出 豊

私が名古屋オペラ協会に参加させて頂いたのは、大賀寛先生のお計らいにより、日本オペラ・シリーズ第3回目の「修禅寺物語」からだと思えます。いろいろな地域にオペラ団が誕生し、オペラ運動が盛んになり始めた頃で、私も多くの場所でオペラ運動に参加させてもらっていましたが、地方ではオペラ運動を育てるのが難しく、どの地域でも多くの問題点を抱えていました。しかし名古屋オペラ協会の初めての練習に伺った時、皆さんのオペラに接する姿勢の素晴らしさと音楽のレベルの高さに大変驚かされました。それは、当時オペラを演奏する団体は歌い手为中心で、そのお弟子さん達が周りを埋めていく、という一つのオペラ運動的活動が多かったのですが、名古屋オペラ協会の場合は横井先生を中心に目的意識をはっきり持ち、団体としてのオペラ活動がどんなものであるかしっかり認識されたうえで活動されていたからだと思います。歌う方達もその厳しさを十二分に知ったうえで稽古をなさっていたのですから、その責任からも立派な歌を歌われていたのだと、あらためて感嘆いたしております。日本オペラ・シリーズとして日本人の作品を現在まで続けておられますが、その意志こそが名古屋オペラ協会であり、また、名古屋オペラ協会が素晴らしい団体だと言われる所以だとも思います。しかし、歌の原点がイタリアのヴェルカントでありオペラの発祥がヨーロッパ、特にイタリアであることを考えたとき、若い歌い手達のヨーロッパオペラへの憧れにはとても大きなものがあると想像します。勿論自身の向上の為には、ヨーロッパ音楽で技術を研かねばなりません。会としては、今までどおり、物真似のオペラではない、私達の生活の中から生まれてくる作品に目を向け続けていただきたいと思えます。「Opera」原語のもつ意味を考え、これからも皆さんの努力で素晴らしい作品を創りあげてください。20周年30周年へと翔く名古屋オペラ協会に期待いたします。



## 日本オペラの伝統を創った15年

指揮者 古谷 誠 一

創立15周年 本当におめでとうございます。

第1回「オペラアリアの夕べ」で横井園生先生と御一緒に指揮をさせていただいて以来、「安寿と厨子王」「赤い陣羽織」「綾の鼓」「修禅寺物語」「夕鶴」等と、日本オペラあるいは日本語によるオペラについて勉強する機会をいただき、名古屋オペラ協会には感謝の言葉もありません。

男性陣の充実と活気ある雰囲気、意欲的なプログラミング等、初回から15年間いつも印象が変わらないのも、運営する方々の並々ならぬ熱意の賜物と思わずにはられません。

遠い稽古場を転々としたのも楽しい思い出ですが、今は素敵なき稽古場もでき、「領事」や「魔笛」など、日本のオペラの枠を越えて活動が広がったことは本当に素晴らしいことだと思います。

世界中で評価の定まった作品を演奏するのは、これはこれで十分に意義あることですし、我々はこの作品によって人生を磨いてきたのですから、これを避けることはできません。しかし、今まさに日本オペラの伝統を創っていかうという意欲的な作品に献身的に取り組まなかったら、これは怠慢というものでしょう。名古屋オペラ協会は、これらを本当にいいバランスで取り込み活動の柱にしていると思います。15周年に当たって川島博先生の新作を取り上げたのは、こういった意味でも素晴らしいことです。

今後更に幅広い充実した活動を続けられ、また微力ながら時々参加させていただきたいと願うものです。本当に長いようで短い15年でした。おめでとうございます。

~~~~~

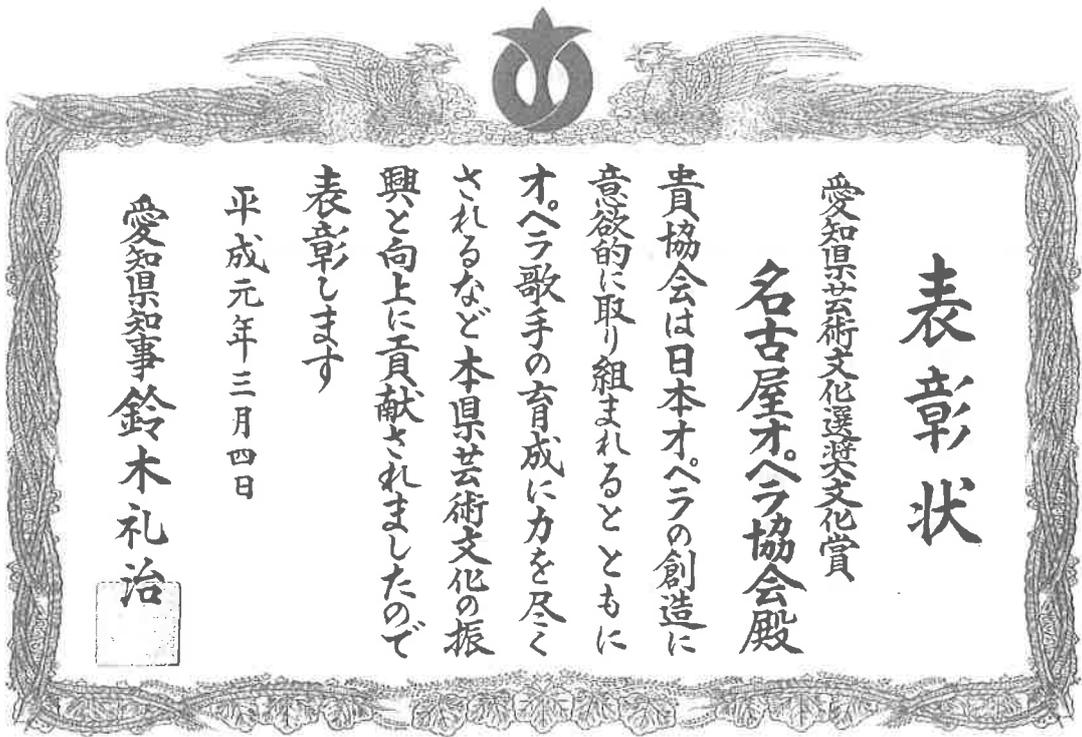


## 持続そして新たなる発展へ

演出家 太田 幸 則

名古屋オペラ協会が歌劇「夕鶴」を旗挙げ公演として発足されてから、早くも15周年を迎えられ、おめでとう御座居ます。横井園生先生をはじめ諸先生方の御努力により、この地におけるオペラ創造集団としての揺ぎ無い立場を築かれつつ有る事は、私にとりましても大きな喜びです。

私自身、オペラ協会の公演にはスタッフの一員として、色々な立場で参加させて頂いて参りました。研究生の修了公演では演出を担当して居りますが、初演出の舞台の緞帳が降りた時、私はすっかり落ち込んで居りました、人前に出るのも恥ずかしく、暫くトイレに隠れて居ました、そんな時、現委員長の福田富子先生から「誰が何と言おうと、私は、素適な演出だったと思うわ」と暖い励ましの御言葉を頂き、本当に救われた思いでした。あれから、いつの間にか13年間に亘る研究生達とのつき合いになって居ります。どの期生の場合も何ヶ月もかけて一緒に舞台作りをした仲間です。5年先、10年先も同じ舞台の上で共に頑張りたいと思います。昨年、伊藤惣介・晶子先生御夫妻の御尽力により、スタジオ・あい、と言う素晴らしい稽古場が完成しました。又、多勢の皆さんからの地元を舞台にした作品を、との声に応え、創作オペラ「琵琶白菊物語」が11月に上演されました。こうした名古屋オペラ協会の着実な歩みが、止まる事無くこの先20周年、30周年へと、新たなる発展を遂げて行かれます様お祈り申し上げます。



# 表彰状

愛知県芸術文化選奨文化賞

## 名古屋オペラ協会殿

貴協会は日本オペラの創造に  
 意欲的に取り組まれるとともに  
 オペラ歌手の育成に力を尽く  
 されるなど本県芸術文化の振  
 興と向上に貢献されましたので  
 表彰します

平成元年三月四日

愛知県知事 鈴木礼治

### 輝く実績、飛躍のあす 県芸術文化選奨



佐々木 侂利子さん



柴田 明さん



榊本 健郎さん



藤森 兼明さん



松井 郁雄さん

## 佐々木さん(洋)ら5人と3団体

県選王目、昭和六十一年度の「愛知県選奨文化賞」を授けられた。芸術文化の発展に貢献し、愛知県民の文化向上に努められた。佐々木さん(洋)ら5人と3団体は、この功績を認め、本年度は、三回にわたって表彰される。佐々木さん(洋)ら5人は、佐々木さん(洋)ら5人と3団体は、この功績を認め、本年度は、三回にわたって表彰される。

- 洋楽 佐々木侂利子さん
- 工芸 柴田 明さん
- 書 榊本樹郎さん
- 絵画 藤森兼明さん
- 音楽 松井郁雄さん
- オペラ 名古屋オペラ協会
- 邦舞工藤 藤 会
- 書 中部日本書道会



名古屋オペラ協会



中部日本書道会



邦舞の工藤会

佐々木侂利子さん(洋楽)は、昭和六十一年度の「愛知県選奨文化賞」を授けられた。佐々木さん(洋)ら5人と3団体は、この功績を認め、本年度は、三回にわたって表彰される。

# 年 表

| 公演年                | 日 本 オ ペ ラ シ リ ー ズ                                                                                                                                 | 公演回数       |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1983年<br>昭和<br>58年 | No.1 「夕 鶴」 (木下順二 原作・團伊玖磨 作曲)<br>指揮：川島 博 演出：小田健也<br>1983年11月25日(金)<br>於：名古屋市民会館大ホール                                                                | 2 回        |
| 1984年<br>昭和<br>59年 | No.2 「釣 女」 狂言「釣女」より (近藤 圭 作曲)<br>指揮：熊崎雅芳 演出：西川好弥<br>「赤い陣羽織」 (木下順二 原作・大栗 裕 作曲)<br>指揮：古谷誠一 演出：木崎裕次<br>1984年11月22日(木)・23日(金)<br>於：名古屋市芸術創造センター       | 3 回        |
| 1985年<br>昭和<br>60年 | No.3 〈文化庁助成〉日本オペラ協会・名古屋オペラ協会提携公演<br>「修禅寺物語」 (岡本綺堂 原作・清水 脩 作曲)<br>指揮：星出 豊 演出：武智鉄二<br>1985年11月9日(土)・10日(日)<br>於：愛知文化講堂                              | 2 回        |
| 1986年<br>昭和<br>61年 | No.4 「三人の女達の物語」 (鈴木松子 台本・別宮貞雄 作曲)<br>指揮：中根国夫 演出：西川好弥<br>「綾の鼓」 (水尾比呂志 台本・入野義朗 作曲)<br>指揮：古谷誠一 演出：木崎裕次<br>1986年10月16日(木)・17日(金)<br>於：名古屋市芸術創造センター    | 3 回<br>3 回 |
| 1987年<br>昭和<br>62年 | No.5 昭和54年度 文化庁特別賞受賞作品<br>「祝い歌が流れる夜に」 (原嘉壽子 台本・作曲)<br>指揮：星出 豊 演出：粟國安彦<br>1987年11月14日(土)・15日(日)<br>於：愛知文化講堂                                        | 2 回        |
| 1988年<br>昭和<br>63年 | No.6 「安寿と厨子王」 (まえだ純 台本・牧野由多可 作曲)<br>指揮：古谷誠一 演出：内山千吉<br>「昔噺人買太郎兵衛」 (若林一郎 台本・間宮芳生 作曲)<br>指揮：川島 博 演出：西川好弥<br>1988年10月26日(水)・27日(木)<br>於：名古屋市芸術創造センター | 3 回<br>3 回 |
| 1989年<br>平成<br>元年  | No.7 「黄金の国」 (遠藤周作 原作・青島広志 作曲)<br>指揮：青島広志 演出：粟國安彦・西川好弥<br>1989年11月17日(金)・18日(土)<br>於：愛知文化講堂                                                        | 2 回        |

|                   |                                                                                                                                                                                     |    |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 1990年<br>平成<br>2年 | <p>No.8 「唐人お吉」 (江上照彦 台本・高木東六 作曲)<br/>指揮：古谷誠一 演出：小田健也<br/>1990年12月11日(火)・12日(水)<br/>於：愛知文化講堂</p>                                                                                     | 2回 |
| 1991年<br>平成<br>3年 | <p>No.9 名古屋市民芸術祭'91主催<br/>「修禪寺物語」 (岡本綺堂 原作・清水 脩 作曲)<br/>指揮：古谷誠一 演出：坂東 梢<br/>1991年11月29日(金)・30日(土)<br/>於：愛知文化講堂</p>                                                                  | 2回 |
| 1992年<br>平成<br>4年 | <p>No.10 愛知芸術文化センター開館記念事業<br/>「春琴抄」 (谷崎潤一郎 原作・まえだ純 台本・三木 稔 作曲)<br/>指揮：星出 豊 演出：栗山昌良<br/>1993年1月29日(金)・30日(土)<br/>於：愛知県芸術劇場大ホール</p>                                                   | 2回 |
| 1993年<br>平成<br>5年 | <p>No.11 「夕 鶴」 (木下順二 原作・團伊玖磨 作曲)<br/>指揮：古谷誠一 演出：太田幸則<br/>1994年3月11日(金)・12日(土)<br/>於：名古屋市芸術創造センター</p>                                                                                | 3回 |
| 1994年<br>平成<br>6年 | <p>No.12 「袈裟と盛遠」 (山内泰雄 台本・石井 歓 作曲)<br/>指揮：星出 豊 演出：栗山昌良<br/>1995年2月1日(水)・2日(木)<br/>於：愛知県芸術劇場大ホール</p>                                                                                 | 2回 |
| 1995年<br>平成<br>7年 | <p>No.13 「海の子守唄」 (J・M シング 原作・山崎愛子 台本・林谷英治 作曲)<br/>指揮：永友博信 演出：池山奈都子<br/>1995年9月27日(水)・28日(木)<br/>於：名古屋市芸術創造センター</p>                                                                  | 2回 |
| 1996年<br>平成<br>8年 | <p>No.14 浜松市委嘱作品<br/>「額田女王」 (井上 靖 原作・原嘉壽子 台本・作曲)<br/>指揮：星出 豊 演出：栗山昌良<br/>1996年11月3日(日)・4日(月)<br/>於：愛知県芸術劇場大ホール</p>                                                                  | 2回 |
| 1997年<br>平成<br>9年 | <p>No.15 名古屋市民芸術祭'97主催事業 名古屋オペラ協会創立15周年記念公演<br/>「琵琶白菊物語」—春日井建作「遙かなる歌遙かなる里」より<br/>(森 治美 台本・川島 博 作曲)<br/>指揮：川島 博 演出：西川好弥<br/>1997年11月7日(金)・8日(土)・9日(日)<br/>於：アートピアホール (名古屋市青少年会館)</p> | 4回 |

| 公演年   | 日本オペラシリーズ以外の公演                                                                                         |                                                                                                                    |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和58年 | 堀江会五周年記念オペラ特別公演(1部…ピアノ 歌2部…セロ弾きのゴーシュ) 作:宮澤賢治 曲:清水 脩<br>1983年12月4日(日) 於:多治見市文化会館大ホール<br>指揮:横井園生 演出:木崎裕次 | 名古屋オペラ協会会員による(第1回)「オペラ・アリアの夕べ」<br>1984年3月30日(金) 於:愛知文化講堂<br>指揮:横井園生・古谷誠一                                           |
| 昭和59年 | 楽しい音楽めぐり<br>1984年9月7日(金) 於:東別院青少年会館ホール                                                                 | 9/7 日本のうた 9/14 オペラ名曲の夕べ<br>9/21 ヴァイオリン・チェロ・ピアノの夕べ<br>9/28 フルートとハープの夕べ<br>10/5 作曲家・人と作品                             |
| 昭和60年 | オペラ「修禅寺物語」<br>1985年11月19日(火)<br>於:豊田市民文化会館<br>主催:豊田文化協会 (株)トヨタ自動車                                      |                                                                                                                    |
| 昭和61年 |                                                                                                        |                                                                                                                    |
| 昭和62年 | 第1回室内オペラ「霊媒」 台本・作曲:G・C・メノッティ<br>1987年5月9日(土) 2回公演<br>於:名古屋市芸術創造センター<br>指揮:横井園生 演出:小田健也                 |                                                                                                                    |
| 昭和63年 |                                                                                                        |                                                                                                                    |
| 平成元年  | バロック音楽の夕べ<br>1989年6月2日(金)<br>於:名古屋市芸術創造センター<br>指揮:古谷誠一                                                 | 平成元年度名古屋市青少年のための芸術劇場「夕鶴」 作:木下順二 曲:團伊玖磨<br>1990年3月10日(土) 於:名古屋市芸術創造センター<br>11日(日) 3回公演<br>指揮:川島 博 演出:内山千吉           |
| 平成2年  | 土肥みゆき 音楽講座<br>1990年6月14日(木)<br>於:電気文化会館コンサートホール                                                        |                                                                                                                    |
| 平成3年  | 第2回オペラ・アリアの夕べ<br>1991年5月11日(土)<br>於:愛知文化講堂<br>指揮:古谷誠一                                                  | 名古屋オペラ協会準会員・オペラ公演「小さな煙突掃除」<br>台本:E. クロージャー 2回公演<br>作曲:B. プリテン<br>1991年8月24日(土) 於:名古屋市芸術創造センター<br>指揮:川島 博 演出:内山千吉   |
| 平成4年  | 名古屋オペラ協会創立10周年記念 名古屋オペラ協会準会員による「モーツァルト・アリアとアンサンブルの夕べ」<br>1992年7月23日(木) 於:名古屋市芸術創造センター<br>指揮:古谷誠一       |                                                                                                                    |
| 平成5年  | 名古屋市民芸術祭'93協賛 第3回「オペラ・アリアの夕べ」<br>1993年11月16日(火)<br>於:愛知県芸術劇場コンサートホール<br>指揮:古谷誠一                        |                                                                                                                    |
| 平成6年  | 室内オペラシリーズNo3「領事」 2回公演<br>台本・作曲:G.C. メノッティ<br>1994年7月13日(水)・14日(木) 於:名古屋市芸術創造センター<br>指揮:古谷誠一 演出:松本重孝    | 日本の作曲家による歌曲の夕べ 山田耕筰・信時 潔 作品集<br>1994年9月13日(火) 於:電気文化会館ザ・コンサートホール<br>東郷高等学校音楽鑑賞会<br>1994年11月19日(土)                  |
| 平成7年  | ヘンゼルとグレーテル 作曲:E. フンパーディンク<br>1995年12月9日(土)<br>於:小原村中央公民館<br>指揮:永友博信 演出:太田幸則                            | NEW YEAR オペレッタの夕べ 男と女の恋のつなひき<br>1996年1月11日(木)<br>於:愛知県芸術劇場コンサートホール                                                 |
| 平成8年  | 星出 豊 音楽講座I<br>1997年1月22日(水)<br>於:電気文化会館ザ・コンサートホール                                                      | 名古屋オペラ協会準会員公演「魔笛」 3回公演<br>台本:E. シカネーダー 作曲:W.A. モーツァルト<br>1997年2月26日(水)・27日(木)<br>於:名古屋市芸術創造センター<br>指揮:古谷誠一 演出:堀口文成 |
| 平成9年  |                                                                                                        |                                                                                                                    |

| 日本歌曲のタベ                                                                                                                              | 研究生の修了公演                                                                                         | 公演年       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
|                                                                                                                                      |                                                                                                  | 昭和<br>58年 |
|                                                                                                                                      | 1期 「フィガロ結婚」<br>1985年3月23日(土) 於：東別院青少年会館ホール<br>作曲：W.A. モーツァルト<br>指揮：熊崎 雅芳 演出：木崎 裕次                | 昭和<br>59年 |
| 第1回 日本歌曲のタベ 1985年6月12日(水) 於：中電ホール<br>日本歌曲のタベ 名古屋オペラ協会準会員第1回公演<br>1986年1月21日(火) 於：布池文化センター・コンコルディアホール                                 | 2期 「ディドとエネアス」<br>1986年3月22日(土) 於：東別院青少年会館ホール<br>作曲：H. パーセル<br>指揮：小林 満 演出：太田 幸則                   | 昭和<br>60年 |
| 第2回 「準会員による日本歌曲のタベ」<br>1987年1月24日(土) 於：中電ホール                                                                                         | 3期 オペラハイライトのタベ<br>「愛の妙薬、トスカ、ラ・ボエーム」より<br>1987年3月24日(火) 於：名古屋市芸術創造センター                            | 昭和<br>61年 |
| 第3回 「準会員による日本歌曲のタベ」<br>1988年1月23日(土) 於：中電ホール                                                                                         | 4期 「セロ弾きのゴーシュ」<br>1988年3月31日(木) 於：愛知県中小企業センター<br>原作：宮沢 賢治 作曲：清水 脩<br>指揮：熊崎 雅芳 演出：太田 幸則           | 昭和<br>62年 |
| 第4回 「準会員による日本歌曲のタベ」<br>1989年1月28日(土) 於：中電ホール                                                                                         | 5期 「ディドとエネアス」<br>1989年3月2日(木)・3日(金) 於：愛知県中小企業センター<br>作曲：H. パーセル<br>指揮：熊崎 雅芳 演出：太田 幸則             | 昭和<br>63年 |
|                                                                                                                                      | 6期 「コジ・ファン・トゥッテ」(抜粋)<br>1990年3月6日(火) 於：名古屋伏見ヤマハホール<br>作曲：W.A. モーツァルト                             | 平成<br>元年  |
| 第5回 「準会員による日本歌曲のタベ」〈中田喜直の作品を集めて〉<br>1990年4月25日(土) 於：電気文化会館ザ・コンサートホール                                                                 | 7期 「セロ弾きのゴーシュ」<br>1991年3月27日(水) 於：愛知県中小企業センター<br>原作：宮沢 賢治 作曲：清水 脩<br>指揮：堀江 幹雄 演出：太田 幸則           | 平成<br>2年  |
| 第6回 「準会員による日本歌曲のタベ」<br>1992年2月15日(土) 於：電気文化会館ザ・コンサートホール                                                                              | 8期 「ディドとエネアス」<br>1992年3月9日(月) 於：愛知県中小企業センター<br>作曲：H. パーセル<br>指揮：堀江 幹雄 演出：太田 幸則                   | 平成<br>3年  |
| 第7回 「準会員による日本歌曲のタベ」<br>1993年3月16日(火) 於：電気文化会館ザ・コンサートホール                                                                              | 9期 「フィガロの結婚」<br>1993年4月8日(木) 於：愛知県芸術劇場小ホール<br>作曲：W.A. モーツァルト<br>指揮：堀江 幹雄 演出：太田 幸則                | 平成<br>4年  |
| 第8回 「準会員による日本歌曲のタベ」<br>1994年2月25日(金) 於：電気文化会館ザ・コンサートホール                                                                              | 10期 「たそがれは逢魔の時間」<br>1994年3月30日(水)・31日(木) 於：愛知県芸術劇場小ホール<br>原作：大島 弓子 作曲：青島 広志<br>指揮：永友 博信 演出：太田 幸則 | 平成<br>5年  |
| 「日本の作曲家による歌曲のタベ」〈山田耕筰・信時潔作品集〉<br>1994年9月13日(火) 於：電気文化会館ザ・コンサートホール                                                                    | 11期 「ヘンゼルとグレーテル」<br>1995年3月28日(火)・29日(水) 於：名古屋市芸術創造センター<br>作曲：E. フンパーディンク<br>指揮：永友 博信 演出：太田 幸則   | 平成<br>6年  |
| 第9回 「準会員による日本歌曲のタベ」〈青島広志の世界〉<br>1995年4月27日(木) 於：電気文化会館ザ・コンサートホール<br>第10回 「準会員による日本歌曲のタベ」〈大中恩の世界〉<br>1996年3月22日(金) 於：電気文化会館ザ・コンサートホール | 12期 「ヘンゼルとグレーテル」<br>1996年2月22日(木)・23日(金) 於：名古屋市芸術創造センター<br>作曲：E. フンパーディンク<br>指揮：永友 博信 演出：太田 幸則   | 平成<br>7年  |
|                                                                                                                                      | 13期 「ヘンゼルとグレーテル」<br>1997年3月27日(木)・28日(金) 於：名古屋市芸術創造センター<br>作曲：E. フンパーディンク<br>指揮：永友 博信 演出：太田 幸則   | 平成<br>8年  |
|                                                                                                                                      | 14期 「ディドとエネアス」<br>1998年3月28日(土) 於：名古屋市芸術創造センター<br>作曲：H. パーセル<br>指揮：永友 博信 演出：太田 幸則                | 平成<br>9年  |

# 1983(昭和58)年度

夕 鶴 1983年11月25日(金)

名古屋オペラ協会  
日本オペラシリーズ No.1

オペラ  
1幕2巻

## 夕 鶴

木下順二 原作 團 伊玖磨 作曲



昭和58年11月25日(金) 午後2時開演/午後7時開演

名古屋市民会館大ホール

主催/名古屋オペラ協会  
後援/愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会



スタッフ

指揮……………川島博  
 演出……………小田健也  
 美術……………岡島茂夫  
 照明……………沢田祐二  
 衣裳……………森亮子  
 演出助手……………木崎裕次  
 演出助手補助……………小沢寛  
 舞台監督……………木田幸則  
 舞台監督助手……………宇都宮章子  
 ………………森下和歌子  
 合唱指揮……………谷鈴代  
 副指揮……………酒井洋一  
 制作補助……………宮地美由紀  
 稽古ピアノ……………丹羽悦子  
 ………………富田初枝  
 大道具・小道具……………(佛金井舞台(大阪))  
 ………………丸善(株)(京都)



キャスト

つう……………伊藤晶子(昼)  
 ………………佐藤和子(夜)  
 与ひょう……………中島基晴(昼)  
 ………………長柄孝彦(夜)  
 運ぶ……………永友博信  
 惣ど……………川口豊  
 子供の合唱……………名古屋オペラ協会児童合唱団  
 ………………谷桃香・水野麻衣  
 ………………谷美幸・山本純司  
 ………………伊藤純平・山田正雄  
 ………………小田有紀子・杉岡美季  
 演奏……………名古屋オペラ協会管弦楽団  
 声楽監修……………大賀寛  
 制作……………横井園生

日本オペラシリーズ以外の公演

セロ弾きのゴージュ／ピアノ・歌 1983年12月4日(日) 於：多治見市文化会館大ホール

主 催：堀江会後援会

後 援：多治見市教育委員会・オペラ特別公演



第二部 (招待公演) 名古屋オペラ協会 岐阜公演

セロ弾きのゴージュ 全3景 宮沢賢治 原作  
清水 脩 台本作曲

|      |             |       |           |
|------|-------------|-------|-----------|
| 指揮   | 横井 園 生      | ゴージュ  | 田 中 省 三   |
| 演出   | 木崎 裕 次      | 楽 長   | 小 林 満 子   |
| 美術   | 木崎 裕 次      | 猫     | 市 来 明 子   |
| 照明   | 渡 辺 明 次     | からこご  | 須 関 紀 子   |
| 舞台装置 | 杉 浦 俊 行     | 狸     | 岡 本 明 子   |
| 合唱指揮 | 堀 江 義 行     | ねずみの親 | 洞 沢 ひ と み |
| 合 唱  | 多治見西高等学校音楽科 | ねずみの子 | 野 村 貴 子   |
| ピアノ  | 多治見女声コーラス   | 司 会 者 | 原 雅 尚     |
| 打楽器  | 森 啓 子       |       |           |
|      | 白 川 和 彦     |       |           |
|      | 杉 浦 理 恵     |       |           |

堀江会五周年記念 オペラ特別公演



名古屋オペラ協会会員によるオペラ・アリアの夕べ(第1回) 1984年3月30日(金)

於：愛知文化講堂

名古屋オペラ協会会員による——  
オペラ・アリアの夕べ

名古屋オペラ協会管弦楽団 指揮 横井園生  
古谷誠一

岡本 明子・永友 博信・中須賀悦子・田中 省三  
三輪 弘美・佐藤 和子・須関 紀子・小林 満  
川口 豊・洞沢ひとみ・長柄 孝彦・伊藤 晶子

昭和59年3月30日(金)  
午後6:30  
愛知文化会館  
主催/名古屋オペラ協会



# 1984(昭和59)年度

釣女／赤い陣羽織 1984年11月22日(木)：23日(金・祝)

名古屋オペラ協会  
日本オペラシリーズ No2

オペラ  
全1幕

## 釣 女

狂言「釣針」より 近藤圭作曲

音楽喜劇  
1幕3場

## 赤い陣羽織

木下順二 原作 大栗裕 作曲

昭和59年11月22日(木)午後6時30分開演  
11月23日(金・祝)午後1時開演／午後6時開演  
名古屋市芸術創造センターホール

主催／名古屋オペラ協会  
後援／愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会



# 釣女

スタッフ

監修……………大賀 寛  
 指揮……………熊崎雅芳  
 演出……………西川好弥  
 装置……………伊藤三郎  
 照明……………児玉道久  
 舞台監督……………太田幸則  
 演出補助……………堀ノ内 宏子  
 制作補助……………山田真治  
 大道具・小道具……………文化 社

## キャスト

あるじ……………永友博信  
 太郎冠者……………長柄孝彦  
 奥 方……………大野 賀久子  
 腰 元……………洞沢 ひとみ  
 ……松波 千津子  
 ……山本 妃佐子

地 唄……………名古屋オペラ協会声楽アンサンブル  
 (腰元)  
 石川あずさ 宇都宮章子  
 岡 ゆかり 加藤須代  
 河合玲子 栗田啓子  
 榊原綾子 平野美保子  
 松澤恵美  
 (名古屋オペラ協会研究生)

演奏……………名古屋オペラ協会器楽アンサンブル

竹内 梓(フルート) 清水敦子(ピアノ)  
 白川和彦(パーカッション) 22・23日夜  
 杉浦里恵(パーカッション) 本多要子(ピアノ)  
 23日夜

# 赤い陣羽織

スタッフ

監修……………大賀 寛  
 指揮……………古谷誠一  
 演出……………木崎裕次  
 装置……………伊藤三郎  
 照明……………児玉道久  
 舞台監督……………太田幸則  
 演出補助……………宮地 美由紀  
 制作補助……………山田真治  
 大道具・小道具……………文化 社

## キャスト

代官……………小原恒久(賛助出演)  
 奥 方……………三輪弘美  
 児 分……………田 中省三  
 おやじ……………中島基晴  
 女 房……………佐藤和子  
 庄 屋……………川 口 豊  
 馬……………柿原典明

腰 元……………名古屋オペラ協会声楽アンサンブル

伊藤真由美 今村 累  
 北山千恵子 伏木陽子  
 水野裕子 三矢聖子  
 山本ひろみ 渡 恵子  
 (名古屋オペラ協会研究生)

演奏……………名古屋オペラ協会器楽アンサンブル

石田なをみ(ヴァイオリン) 白川和彦(パーカッション)  
 照喜名一男(チェロ) 杉浦里恵(パーカッション)  
 渡部真理(ピアノ)

練習ピアノ……………大橋三佳子

久田真葉

協力

衣 装……………北 徳  
 かつら……………神田かつら  
 制 作……………横井園生

さし絵・デザイン

樋田恵子



# 日本オペラシリーズ以外の公演

楽しい音楽めぐり 1984年9月7日(金)

於：東別院青少年会館ホール

お話 川島 博・照喜名一男・伊藤 晶子・三輪 弘美  
 歌 伊藤 晶子・永友 博信・長柄 孝彦・斉藤 智子・三矢 聖子  
 真鍋 尚子・宮地美由紀・水谷 朋子・西尾 由美・永津和歌子  
 柿原 典明・栗田 啓子・市来 明子  
 ヴァイオリン 石田なをみ チェロ 照喜名一男  
 フルート 竹内 梓 ハープ 木村 直子  
 ピアノ 渡部 真理



## 楽しい音楽めぐり

☆夜にわたって、みなさんと過ごす楽しい音楽の夕……☆

歌は名古屋オペラ協会の優秀メンバー、ピアノ、ヴァイオリンなど有名一流演奏家をそろえて。感動をあなたと共に———。

### 出演

・お話 川島 博 照喜名一男 伊藤晶子 三輪弘美  
 ・歌 伊藤晶子 永友博信 長柄孝彦 斉藤智子 三矢聖子  
 真鍋尚子 宮地美由紀 水谷朋子 西尾由美 永津和歌子  
 柿原典明 栗田啓子 市来明子  
 ・ヴァイオリン 石田なをみ  
 ・チェロ 照喜名一男  
 ・フルート 竹内 梓  
 ・ハープ 木村直子  
 ・ピアノ 渡部真理

日程・テーマ <毎週金曜日・午後4時30分より8時30分>

9/7 日本のお話 9/14 オペラの名曲の夕 9/21 ヴァイオリン、チェロ、ピアノの夕 9/28 フルートとハープの夕 10/5 作曲家・人と作品

会場 東別院青少年会館(3階大フロア)  
 定員 200名<定員になり次第ノ切します>

会員券 8,000円 <5回通し券>

### お申し込み方法

下記の場所にて指定時間内受付致します。

・東別院青少年会館(地下鉄「東別院」下車・西へ2分)

- ・8月11日(土) 午後2時より午後8時まで
- ・8月18日(土) 午後2時より午後8時まで
- ・8月19日(日) 午後2時より午後8時まで

<上記受付指定日以降は、月曜日を除き午後2時-6時受付>

問い合わせ電話番号 (052) 331-9576 番 (青少年会館「音楽めぐり」係)

主催 東別院青少年会館

後援 名古屋オペラ協会



# 第1期 研究生試演会

セロ弾きのゴーシュ 1984年4月1日(日)

於：東別院青少年会館ホール

指揮：熊崎 雅芳 演出：杉浦 俊  
2:00 5:00

名古屋オペラ協会第一期研究生による試演会

「セロ弾きのゴーシュ」全三景

宮沢賢治 原作  
清水 椿 作曲

キャスト：ゴーシュ……………宇都宮章子 北山千恵美  
楽長……………見田 清隆 神谷 敏男  
猫……………平野美保子 山本ひろみ  
かっこう……………堀 久美子 服部 礼子  
狸……………石川あずさ 加藤 須代  
ねずみ……………松沢 恵美 三木 一子

1984. 4. 1 @ PM 2:00, 5:00  
東別院青少年会館ホール

主催/名古屋オペラ協会  
東別院青少年会館



# 第1期 研究生修了公演

フィガロの結婚 1985年3月23日(土)

於：東別院青少年会館ホール

「フィガロの結婚」  
モーツァルト 作曲  
中山 新一 訳劇

1985. 3. 23 @ PM 4:00, 5:00  
東別院青少年会館ホール  
全席券 1000円

主催/名古屋オペラ協会  
東別院青少年会館

1:00 5:00  
メソッド 西尾 山崎 杉浦 服部  
メソッド 西尾 山崎 杉浦 服部  
メソッド 西尾 山崎 杉浦 服部

名古屋オペラ協会  
第一期研究生による試演会  
「セロ弾きのゴーシュ」  
第二期研究生による試演会



「セロ弾きのゴーシュ」  
宮沢賢治 原作  
清水 椿 作曲

1985. 3. 28 @ PM 4:00, 5:00  
東別院青少年会館ホール  
全席券 1000円

主催/名古屋オペラ協会  
東別院青少年会館

1:00 5:00  
メソッド 西尾 山崎 杉浦 服部  
メソッド 西尾 山崎 杉浦 服部  
メソッド 西尾 山崎 杉浦 服部



# 1985(昭和60)年度

修禅寺物語 1985年11月9日(土)・10日(日)

〈文化庁助成〉

日本オペラ協会・名古屋オペラ協会提携公演

日本オペラシリーズ No.31

清水 脩 作曲・岡本綺堂 原作

## 歌劇 修禅寺物語 全1幕3場

OSAMU SHIMIZU

"A MASK-MAKER'S STORY" opera in one act, three scenes  
Libretto by Kidō Okamoto



'85年11月9日(土)6:30pm・10日(日)2:00pm

愛知文化講堂

主催/財団法人 日本オペラ振興会

後援/愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会



スタッフ

監修……………大賀寛  
 音楽監督……………横井園生  
 指揮……………星出豊  
 演出……………武智鉄二  
 演出補……………板東梢  
 美術……………長倉稔  
 照明……………川本周二  
 舞台監督……………太田幸則  
 舞台監督補……………荒井間佐登  
 副指揮……………熊崎雅芳  
 管弦楽……………名古屋オペラ協会管弦楽団  
 練習ピアノ……………波部真理  
 ………………清水敦子  
 ………………本多要子  
 大道具……………名古屋市民文化社  
 小道具……………藤浪小道具  
 衣裳……………松竹衣裳  
 かつら……………丸善かつら  
 制作……………竹本正俊



キャスト

頼家……………古沢泉(9日)  
 夜叉王……………長柄孝彦(10日)  
 ………………砂田直規(9日)  
 ………………永友博信(10日)  
 ………………伊藤晶子(9日)  
 ………………松波千津子(10日)  
 ………………かえで洞沢ひとみ(9日)  
 ………………大野賀久子(10日)  
 春彦……………中島基晴(9日・10日)  
 五郎……………田中省三(9日・10日)  
 行親……………川口豊(9日・10日)  
 僧……………小原恒久(9日・10日)  
 ………………神谷敏男(9日・10日)  
 軍兵……………原雅尚(9日・10日)  
 ………………小坂井康仁(9日・10日)  
 ………………山下一郎(9日・10日)

日本オペラシリーズ以外の公演

第1回 日本歌曲の夕べ 1985年6月12日(水)

於：中電ホール



|          |         |          |
|----------|---------|----------|
| 出演：洞沢ひとみ | 六つの子供の歌 | 中田 喜直 作曲 |
| 永友 博信    | 海 四 章   | 中田 喜直 作曲 |
| 伊藤 晶子    | 瞳・空・落葉松 | 小林 秀雄 作曲 |
|          | 胡蝶花によせて |          |
| 大野賀久子    | 恋のミステリー | 大中 恩 作曲  |
| 中須賀悦子    | 五つの断章   | 團 伊玖磨 作曲 |
| 神田 詩朗    | 海 四 章   | 別宮 貞雄 作曲 |

第1回 準会員による日本歌曲の夕べ 1986年1月21日(火)

於：布池文化センター  
コンコルディアホール

日本歌曲の夕べ  
名古屋オペラ協会準会員第1回公演

日時/1986年1月21日(火) P-M.6:30  
会場/布池文化センター・コンコルディアホール  
主催 名古屋オペラ協会

三 矢 聖 子

別宮貞雄：歌曲集「淡彩抄」より……………大木 惇 夫 詩  
泡  
螢  
入墨子  
天の川  
鶯  
春近き日に  
さくら横ちょう ……………加藤 周一 詩  
ピアノ：森田貨洋子

加 藤 須 代

大中 恩：歌曲集「恋のミステリー」…内山登美子 詩  
風が囁くとき  
ひとつのレモン  
三月  
お聞きまあとキスをした  
恋のミステリー  
ピアノ：平岩智寿

松 澤 恵 美

柴田南雄：歌曲集「優しき歌」より……………立 原 道 造 詩  
序の歌  
爽やかな五月に  
落葉林で  
さびしき野辺  
夢のあと  
ピアノ：田辺美砂子

石 川 あ ず さ

中田喜直：「日本のおもちゃうた」……………岸田 幹 子 詩  
I. あねさまにんぎょう  
II. ヨーヨー  
III. お手玉とおはじき  
IV. 海ほうずきと少年  
V. 竹とんぼ  
VI. おまつりはどこ  
VII. 紙風船  
ピアノ：森田貨洋子

休 憩

平 野 美 保 子

小林秀雄：日記帳 ……………藤田 圭 雄 詩  
遊すみれ ……………喜志 邦 三 詩  
落葉松 ……………野 上 彰 詩  
ピアノ：加来真理江

市 来 明 子

磯 部 俊：雨の物語 ……………西岡 光 秋 詩  
松の花 ……………大木 惇 夫 詩  
ピアノ：平岩智寿

服 部 礼 子

中田喜直：真昼の乙女たち ……………中村真一郎 詩  
たんばば ……………三 好 達 治 詩  
サルビア ……………堀 内 幸 枝 詩  
鳩笛の唄 ……………清水 みの 子 詩  
悲しくなったときは ……………寺 山 修 司 詩  
ピアノ：森田貨洋子

第2期 研究生修了公演

ディドとエネアス 1986年3月22日(土)

於：東別院青少年会館ホール



指揮：小林 満 演出：太田 幸則  
キャスト： 昼 夜

|                |       |
|----------------|-------|
| ディド……………伊藤真由美  | 今村 累  |
| エネアス……………奥村 晃平 | 奥村 晃平 |
| ベリンダ……………榑原 綾子 | 堀ノ内宏子 |
| 大魔女……………水野 裕子  | 水野 裕子 |
| 小魔女1……………秋田 祐子 | 秋田 祐子 |
| 小魔女2……………河合 玲子 | 河合 玲子 |
| マーキュリー…市川 陽子   | 市川 陽子 |
| 侍女……………佐藤 恵子   | 佐藤 恵子 |
| 水夫……………富田 庸男   | 富田 庸男 |
| コロス……………市川 茂美  |       |
|                | 奥村 貴子 |
|                | 田中 昌子 |
|                | 牧野 佳子 |
|                | 出石 敦子 |
|                | 小林万里子 |
|                | 野村やよい |
|                | 三尾子嗣枝 |



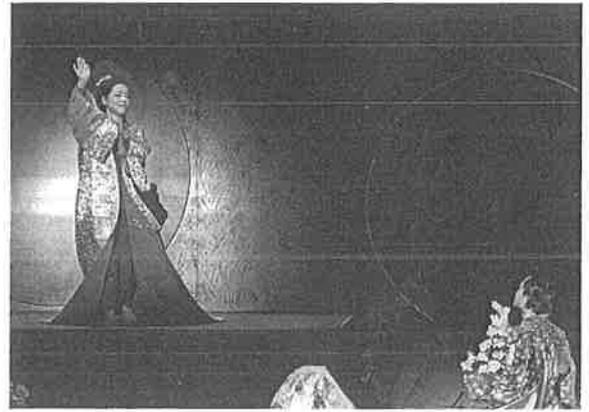
# 1986(昭和61)年度

三人の女達の物語／綾の鼓 1986年10月16日(木)・17日(金)

1986年10月

綾の鼓

三人の女達の物語



# 三人の女達の物語

●スタッフ

台本 鈴木松子  
 作曲 別宮貞雄  
 指揮 中根国夫  
 演出 西川好弥  
 演出補 石狩真佐夫  
 演出助手 荒川なおみ  
 野田百合江

●キャスト

「第1話/情あつき女」  
 奥方 中須賀悦子  
 大名 長柄孝彦  
 花子 大野賀久子(16日・17日夜)  
 栗田啓子(17日昼)  
 太郎 牛島正隆(賛助出演)

「第2話/智恵深き女」

女 栗田啓子(16日・17日夜)  
 大野賀久子(17日昼)  
 町人 牛島正隆  
 次郎 竹内将(賛助出演)

「第3話/力強き女」

女房 佐藤和子  
 百姓II 大槻義昭(特別出演)  
 百姓(MAIM) 長柄孝彦  
 三郎 牛島正隆  
 練習ピアノ 本多要子  
 甚目裕夫  
 谷口ひさえ  
 徳丸美里

# 綾の鼓

●スタッフ

台本 水尾比呂志  
 作曲 入野義朗  
 指揮 古谷誠一  
 演出 木崎裕次  
 振付 佐藤友彦  
 西川好弥  
 演出助手 市来明子

●キャスト

新しい女御 須関紀子  
 女御 松波千津子  
 夕波 洞沢ひとみ  
 翁・怨霊 川口豊  
 帝(影) 横井園生  
 舞踊 河合玲子  
 牧野佳子  
 荒川なおみ  
 波部真理  
 神野薫子  
 本多由美子

練習ピアノ

装置 伊藤三朗  
 照明 児玉道久  
 衣装 中矢恵子  
 メイク 加藤都希子  
 舞台監督 太田幸則  
 舞台監督助手 野田万理恵  
 大道具 舞台工房 未来社  
 合唱指揮 矢野としゑ  
 合唱 コール・フロイデ  
 管弦楽 名古屋オペラ協会管弦楽団  
 制作 小林満



# 日本オペラシリーズ以外の公演

## 第2回 準会員による日本歌曲の夕べ 1987年1月24日(土)

於：中電ホール

### 榎原綾子

團 伊玖磨：はる ……谷川俊太郎 詩  
旅上 ……萩原朔太郎 詩  
「抒情歌」 ……大木 実 詩  
I. 花季  
II. 路地の子  
III. 藤の花

ピアノ：本多要子

### 河合玲子

別宮貞雄：歌曲集「淡彩抄」 ……大木惇夫 詩  
I. 泡  
II. 螢  
III. 入墨子  
IV. 涼雨  
V. 別後  
VI. 燈  
VII. 天の川  
VIII. 青蜜柑  
IX. 鶯  
X. 春近き日に

ピアノ：森田貨洋子

### 山本ひろみ

中田喜直：ひなの日は ……堀内幸枝 詩  
すずしきうなじ ……三好達治 詩  
髪 ……原條あき子 詩  
むこう むこう ……三井ふたばこ 詩  
霧と話した ……鎌田忠良 詩

ピアノ：森田貨洋子

### 江崎益子

中田喜直：歌曲集「六つの子供の歌」

1. うばぐるま ……西条八十 詩
2. 鳥 ……小川未明 詩
3. 風の子供 ……竹久夢二 詩
4. たあんき ぼーんき ……山村暮鳥 詩
5. ねむの木 ……野口雨情 詩
6. おやすみ ……三木露風 詩

ピアノ：青山敬子

休 憩

### 堀ノ内宏子

山田耕筰：嘆き ……三木露風 詩  
風ぞゆく  
燕(つばくらめ)  
異國  
みぞれに寄する愛の歌 ……大木惇夫 詩

ピアノ：長岡 功

### 伊藤眞由美

山田耕筰：中国地方の子守歌 ……日本古謡  
野薔薇 ……三木露風 詩  
からたちの花 ……北原白秋 詩  
唄 ……三木露風 詩  
曼珠沙華 ……北原白秋 詩

ピアノ：森田貨洋子

### 伊藤美知子

小林秀雄：瞳 ……藤摩 忠 詩  
日記帳 ……藤田 圭雄 詩  
秋刀魚の歌 ……佐藤 春夫 詩

ピアノ：本多要子

第3期 研究生修了公演

オペラハイライトの夕べ 1987年3月24日(火)

於：名古屋市芸術創造センター



名古屋オペラ協会第三期研究生修了公演

## オペラハイライトの夕べ

ドニゼッティ作曲  
「愛の妙薬」 第二幕より  
ジョンネッテ：田中昌子 合唱：名古屋オペラ協会第四期研究生

ブッチーニ作曲  
「トスカ」 第一幕・第二幕より  
トスカ：野村やよい 出石敦子  
カヴァドッシ：江端智哉 スカルピア：中野俊哉  
スボレート：柿原典明

ブッチーニ作曲  
「ボエーム」 第一幕・第三幕より  
ミミ：牧野佳子 三尾幸綱枝  
ロドルフォ：山田正文 野村富昭  
ムゼッタ：田中昌子 マルチェッロ：永友博信(合唱)

伴奏：甚目裕夫 渡部真理  
(協力 アミーチカント会)

1987. 3. 24(火) 名古屋芸術創造センター  
開演：P.M.6:30 入場料 1,000円

**名古屋オペラ協会**



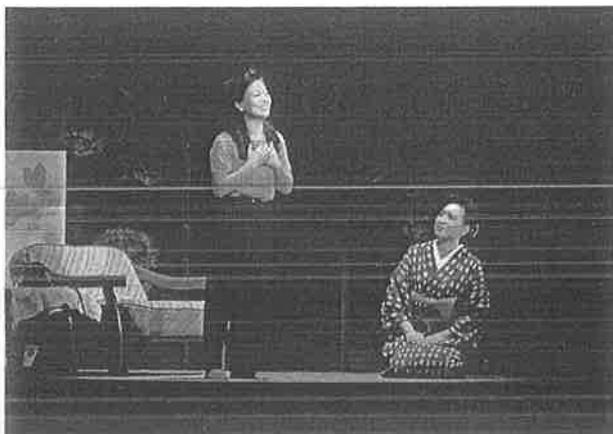
# 1987(昭和62)年度

祝い歌が流れる夜に 1987年11月14日(土)・15日(日)



・87. 11月14日(土) 6:30pm開演・15日(日) 2:00pm開演—愛知文化講堂 (テレビ録音)

名古屋オペラ協会創立五周年記念公演 (日本オペラシリーズⅢ)



●スタッフ

監 修 大賀 寛  
 指 揮 星出 豊  
 演 出 粟国 安彦  
 装 置 伊藤 三朗  
 照 明 石原 福雄  
 音 響 加藤 等  
 舞台監督 太田 幸則  
 演出補助 菊本 健朗  
 演出助手 野田 万里恵  
 舞台監督助手 野田 百合江  
 副指揮 熊崎 雅芳  
 大道具・小道具 舞台工房「未来社」  
 管弦楽 名古屋オペラ協会  
 管弦楽団  
 尺 八 岩田 恭彦  
 練習ピアノ 本多 要子  
 甚目 裕夫  
 近藤 鶴代  
 林 邦子  
 川島 博  
 小林 満  
 伊藤 晶子

●キャスト

伊藤 晶子 (14日)  
 松波 千津子 (15日)  
 金沢公一郎 永友 博信 (14日)  
 小原 恒久 (15日)  
 艶 子 中須賀 悦子 (14日)  
 千田 恭子 (15日)  
 謙 一 林 剛一 (14日) 賛助  
 土佐 誠 (15日)  
 雅 江 佐藤 和子 (14日)  
 五島 由美子 (15日)  
 みどり 須関 紀子 (14日)  
 大野 賀久子 (15日)  
 中川義男 長柄 孝彦 (14日)  
 江原 滋樹 (15日)  
 友森 美文 (14日) 賛助  
 西村 英 (15日) 賛助  
 植村正造 川島 雅彦 (14日・15日) 賛助  
 植村靖子 山本 ひろみ (14日)  
 安藤 美子 (15日)  
 しまの母 伊藤 美知子 (14日)  
 松沢 恵美 (15日)  
 女中キョ 出石 敦子 (14日・15日)  
 女中キク 野村 やよい (14日・15日)  
 兵隊・警官・民間人 三輪 智明 (14日・15日) 賛助  
 長谷川 雅一 (14日・15日) 賛助  
 小島 正嗣 (14日・15日) 賛助  
 金沢公一郎の 横井 園生 (14日・15日)  
 伯父 川口 豊 (14日・15日)  
 金沢公一郎の 叔父 川口 豊 (14日・15日)  
 回想シーンの子供 中須賀 美和子 (14日・15日) 賛助



日本オペラシリーズ以外の公演

第1回室内オペラ「霊媒」 台本・作曲：G.C.メノッティ 1987年5月9日(土)

於：名古屋市芸術創造センター

指揮：横井園生 演出：小田健也



キャスト

|           | 昼の部    | 夜の部   |
|-----------|--------|-------|
| モニカ       | ：水谷 朋子 | 須関 紀子 |
| トビー       | ：三輪 智明 | 前田 孝造 |
| マダム フローラ  | ：市来 明子 | 中須賀悦子 |
| ミセス ゴピノー  | ：平野美保子 | 松澤 恵美 |
| ミスター ゴピノー | ：岡本 茂郎 | 小林 満  |
| ミセス ノーラン  | ：水野 裕子 | 伊藤美知子 |



第3回 準会員による日本歌曲の夕べ 1988年1月23日(土)

於：中電ホール



- 出演：1. 野村やよい  
2. 出石 敦子  
3. 牧野 佳子  
4. 水野 裕子  
5. 三尾予嗣枝  
6. 藤本 圭子  
7. 安藤 美子  
8. 水谷 朋子

- 團 伊玖磨 作曲：歌曲集「六つの子供の歌」  
" 作曲：歌曲集「わが歌」より  
中田 喜直 作曲：たんぽぽ、髪 他  
" 作曲：歌曲集「六つの子供の歌」より  
別宮 貞雄 作曲：歌曲集「淡彩抄」より  
小林 秀雄 作曲：麦わら帽子・夢占い 他  
" 作曲：日記帳、愛のささやき 他  
平野 淳一 作曲：紙ふうせん、風のように 他

第4期 研究生修了公演

セロ弾きのゴーシュ 1988年3月31日(木)

於：愛知県中小企業センターホール



指揮：熊崎 雅芳 演出：太田 幸則

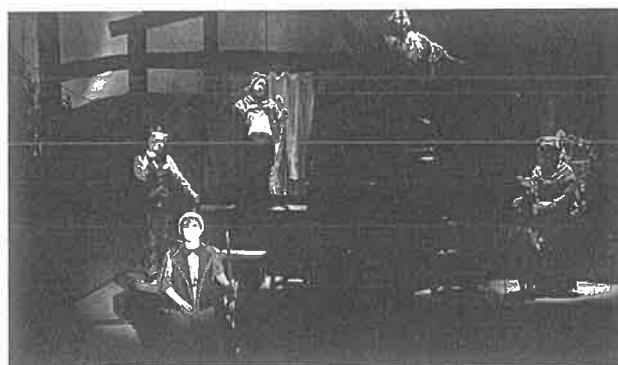
第四期研究生修了公演  
**セロ弾きのゴーシュ**  
全三景  
宮沢賢治 原作  
黒木 康 演出

キャスト：ゴーシュ……………榎木多佳子  
猫……………野田百合江  
かっこう……………荒川なおみ  
狸の子……………小林 恵子  
ねずみの親……………鷺見 美保  
ねずみの子……………尼子 貴世

1988. 3. 31(木) P.M. 6:30

愛知県中小企業センターホール

主催/名古屋オペラ協会



# 1988(昭和63)年度

安寿と厨子王／昔噺人買太郎兵衛 1988年10月26日(水)・27日(木)



# 安寿と厨子王(一幕二景)

## ●スタッフ

台本 まえだ 純  
作曲 牧野 由多可

指揮 古谷 誠一  
演出 内山 千吉

演出助手 野田 万里恵  
副指揮 堀江 幹雄

## ●キャスト

安寿 須関 紀子 (26日・27日昼)

厨子王 栗田 啓子 (27日夜)

千田 恭子 (26日・27日昼)

五島 由美子 (27日夜)

母 御 佐藤 和子 (26日・27日昼)

小萩 伊藤 美知子 (27日夜)

二郎 土佐 誠

三郎 林 剛一 (賛助)

山椒太夫 新実 真琴 (賛助)

律師 川口 豊

関白師実 永友 博信

宮崎の三郎 川瀬 信一郎 (賛助)

関白の従者 川瀬 信一郎 (賛助)

練習ピアノ 本多 要子

新家 麻利

三宅 順子

# 昔噺人買太郎兵衛(一幕)

## ●スタッフ

台本 若林 一郎  
作曲 関宮 芳生

指揮 川島 博  
演出 西川 好弥

演出助手 脇島 かよ子

美術 内山 千吉 (安寿と厨子王)

伊藤 三郎 (昔噺人買太郎兵衛)

照明 児玉 道久

舞台監督 太田 幸則

大道具・小道具 舞台工房「未来社」

管弦楽 名古屋オペラ協会器楽アンサンブル

制作 横井 園生 (安寿と厨子王)

小林 満 (昔噺人買太郎兵衛)

## ●キャスト

太郎兵衛 小林 満 (26日・27日昼)

おもん 牛島 正隆 (27日夜)

次郎作 大野 賀久子 (26日・27日昼)

松波 千津子 (27日夜)

長柄 孝彦 (26日・27日昼)

竹内 将 (27日夜・賛助)

練習ピアノ 近藤 鶴代

山田 礼子



日本オペラシリーズ以外の公演

第4回 準会員による日本歌曲の夕べ 1989年1月28日(土)

於：中電ホール



名古屋オペラ協会準会員による  
第4回日本歌曲の夕べ  
～山田耕祥の作品を集めて



- |           |                  |
|-----------|------------------|
| 演：1. 小林恵子 | 風鈴・青い小鳥 他        |
| 2. 山本ひろみ  | 雛祭・風車の歌 他        |
| 3. 佐藤まゆみ  | 唄・春の唄 他          |
| 4. 堀ノ内宏子  | 白百合・地の上に花咲くかぎり 他 |

1989年1月28日(土) PM6:45

中電ホール

主催：名古屋オペラ協会

小林恵子

|              |          |
|--------------|----------|
| 風鈴           | 川路 柳 虹 詩 |
| 青い小鳥         | 川路 柳 路 詩 |
| かやの木山の鐘が鳴ります | 北原 白 秋 詩 |
| 風ぞゆく         | 北原 白 秋 詩 |
| 異國           | 三木 露 風 詩 |
| 燕(つばくらめ)     | 三木 露 風 詩 |
| 野薔薇          | 三木 露 風 詩 |
| 馬売り          | 北原 白 秋 詩 |
| 松島音頭         | 北原 白 秋 詩 |

ピアノ：山 田 礼 子

佐藤まゆみ

|            |          |
|------------|----------|
| 唄          | 三木 露 風 詩 |
| 春の唄        | 三木 露 風 詩 |
| 枯葉         | 村岡 晃 詩   |
| 秋の夜        | 三木 露 風 詩 |
| むかし噺       | 北原 白 秋 詩 |
| 樹立         | 三木 露 風 詩 |
| 兵士の妻の祈り    | 西条 八 十 詩 |
| 母のこえ       | 大木 惇 夫 詩 |
| みぞれに寄する愛の歌 | 大木 惇 夫 詩 |

ピアノ：片 山 久 仁 子

山本ひろみ

|          |          |
|----------|----------|
| 雛祭       | 足立 泰 三 詩 |
| 風車の歌     | 三木 露 風 詩 |
| 近く春      | 長田 幹 彦 詩 |
| 曼珠沙華     | 北原 白 秋 詩 |
| 待ちぼうけ    | 北原 白 秋 詩 |
| からたちの花   | 北原 白 秋 詩 |
| さくらさくら   | 日 本 古 謡  |
| 中国地方の子守唄 | 日 本 古 謡  |

ピアノ：本 多 要 子

堀ノ内宏子

|               |          |
|---------------|----------|
| 白百合           | 大木 惇 夫 詩 |
| 地の上に花咲くかぎり    | 大木 惇 夫 詩 |
| 薔薇の花に心をこめて    | 大木 惇 夫 詩 |
| 『我が思ひ』        | 三木 露 風 詩 |
| 湧く涙           |          |
| 風に思いを         |          |
| 夜曲            |          |
| 『風に寄せて歌える春の歌』 | 三木 露 風 詩 |
| 青き臥床をわれ飾る     |          |
| 君がため織る綾錦      |          |
| 光にふるい日に舞へる    |          |
| たたえよ しらべよ     |          |

ピアノ：長 岡 功

第5期 研究生修了公演

デイドとエネアス 1989年3月2日(木)・3日(金)

於：中小企業センター



指 揮：熊崎 雅芳 演 出：太田 幸則

|             |       |       |
|-------------|-------|-------|
|             | 2 日   | 3 日   |
| キャスト：デイド    | 神野 英世 | 脇島かよ子 |
| ベリンダ        | 加藤 智子 | 片桐 皆枝 |
| 侍女          | 片桐 皆枝 | 加藤 智子 |
| エネアス        | 川瀬信一郎 | 川瀬信一郎 |
| 大魔女         | 鈴木 正子 | 加藤 良美 |
| 小魔女1        | 幸 浩美  | 幸 浩美  |
| 小魔女2        | 井手 敦子 | 井手 敦子 |
| 魔女の精        | 成瀬江利子 | 成瀬江利子 |
| 水夫          | 市川 直子 | 市川 直子 |
| コロス(六期生)    |       |       |
| 青木由香里       | 川崎 裕子 | 杉本 弓子 |
| 坂野 美保       | 久木 恵子 |       |
| 賛助出演 浅野香保里  |       |       |
| 安藤 泉        | 井村 文  | 鵜飼 綾子 |
| 後藤 幹子       | 遠山 直里 |       |
| エコー賛助出演 南部泉 |       |       |
| 前嶋 郁子       | 山田 千加 |       |
| 山本 礼子       | 吉井 万里 |       |
| 吉村 京子       | 渡辺久美子 |       |

第5期研究生修了公演

パール作劇

『デイドとエネアス』

'89. 3月2日(木) P.M7:00  
3日(金) P.M7:00

中小企業センター

# 1989(平成元)年度

黄金の国 1989年11月17日(金)・18日(土)

昭和63年度愛知県芸術文化選奨文化賞受賞記念公演  
名古屋オペラ協会公演〈日本オペラシリーズNo.7〉

総監督 横井 園生  
指揮 青島 広志 演出 西川 好弥

オペラ

## 黄金の国

全二幕

原作 遠藤 周作  
作曲 青島 広志  
山演 名古屋オペラ協会

平成元年11月17日(金)・18日(土) 6:30 開演  
愛知文化講堂(テレビ塔東)

主催 名古屋オペラ協会 後援 愛知県教育委員会  
名古屋市教育委員会



○スタッフ

総監督……………横井園生  
 監督……………栗国安彦

指揮……………青島広志

演出……………西川好弥

装置……………伊藤三郎

照明……………石原福雄

音響……………加藤始

衣裳……………井上サチコ

舞台監督……………太田幸則

副指揮……………堀江幹雄

12人のソリスト  
 合唱指揮……………吉川朗

演出助手……………桑原貴

大道具・小道具……………若尾総合舞台研究所

衣裳……………東京衣裳

かつら……………神田かつら

メイク……………真津田美沙子

名古屋オペラ協会音楽アンサンブル

フルート……………竹内梓

クラリネット……………亀井良幸

ホルン……………吉田章

トランペット……………村木純一

ヴァイオリン……………伊藤誠

チェロ……………中川さと子

打楽器……………早川幸

ピアノ……………山下里恵

練習ピアノ……………本多要子

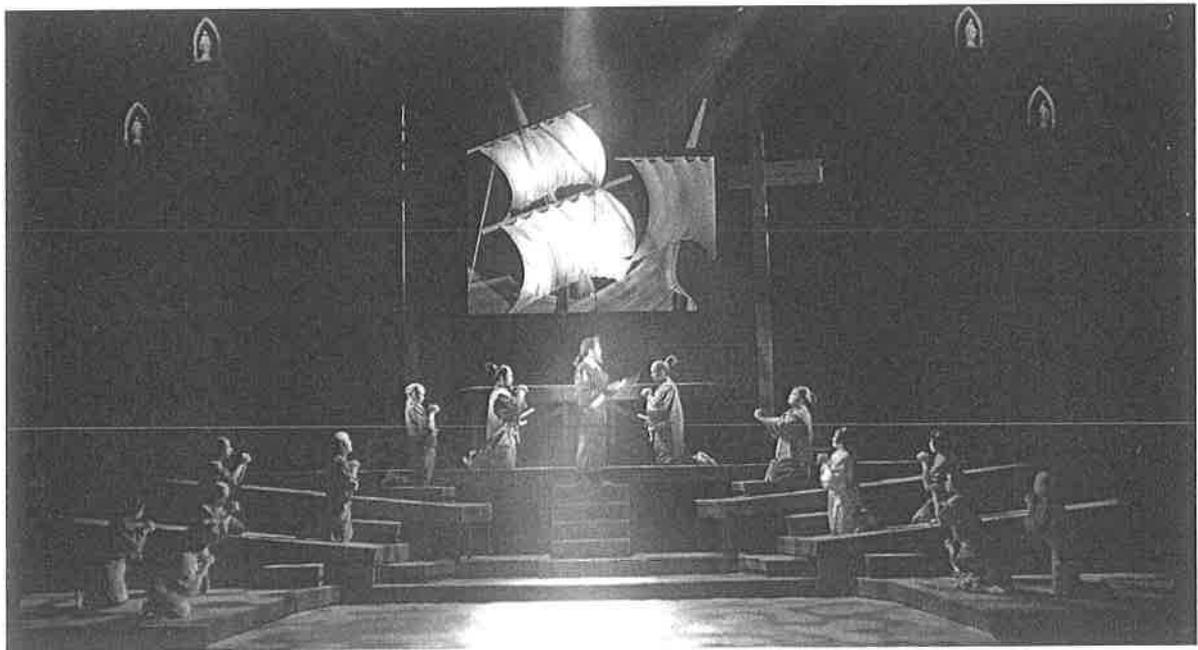
……………新美麻利

……………三宅順子

……………小林満

……………川島博

……………伊藤晶子



《全二幕》

原作……………遠藤周作  
 作曲……………青島広志

○キャスト

朝長作右衛門……………川口豊

雪……………松波千津子 (17日)

はつ……………取越康子 (18日)

フェレイラ……………中須賀悦子 (17日)

……………伊藤美知子 (18日)

……………土佐誠 (17日)

……………新実真琴 (18日)

嘉助……………牛島正隆

のろ作……………竹内将

茂吉……………友森美文

久市……………家田正秀 (17日)

……………佐藤学 (18日)

井上筑後守……………砂田直規

平田主膳……………川瀬信一郎

加納源之助……………長柄孝彦

伝令……………南川智之

村人達・役人達……………名古屋オペラ協会音楽アンサンブル

天から聞こえる12の声

ソプラノ

……………安藤泉

……………藤本善恵

……………楠木ひろみ

……………日比直子

……………山崎麻子

……………藤原良章

……………柳本知宣

……………新垣哲

アルト

……………山崎由紀

……………中村彩乃

……………村上由美子

……………荒井紀子

……………沖田博子

……………石黒伸吾

……………松井優二

……………藤川健

バス

……………藤川健

日本オペラシリーズ以外の公演

バロック音楽の夕べ 1989年6月2日(金)

於：名古屋市芸術創造センター



ヘンデル：「快活の人」より

共に来て踊ろう  
幸せの鐘を鳴らす前に

(ソプラノ)  
小林 恵子

さまよい歩きたい  
幸せよ私を受け入れてくれ

(ソプラノ)  
佐藤 まゆみ

「アマーディシ」より

あま、なんと無情な

(メゾソプラノ)  
市来 明子

「ジュリアスシーザー」より

私の運命を嘆く

(ソプラノ)  
水谷 朋子

パーセル：「ディドとエネアス」より

わがなきあとに

(ソプラノ)  
三尾 子嗣枝

ベルゴレージ：「嘆きの聖母」全曲

(メゾソプラノ)  
中須賀 悦子(会員賛助)  
伊藤 美知子( )

(ソプラノ)  
出石 敦子  
藤本 圭子  
堀ノ内 宏子

「夕鶴」 1990年3月10日(土)・11日(日)

於：名古屋市芸術創造センター



原作：木下 順二 作曲：團 伊玖磨  
指揮 川島 博 演出：内山 千吉

|      |              |       |
|------|--------------|-------|
| キャスト | 10, 11日昼     | 11日夜  |
| つう   | 佐藤 和子        | 五島由美子 |
| 与ひょう | 長柄 孝彦        | 竹内 将  |
| 運ず   | 永友 博信        | 牛島 正隆 |
| 惣ど   | 川口 豊         | 友森 美文 |
| 子供たち | 名古屋青少年少女合唱団  |       |
| 演奏   | 名古屋オペラ協会管弦楽団 |       |

第6期 研究生修了公演

コシ・ファン・トゥッテ(抜粋)～女はみんなこうしたもの～ 1990年3月6日(火)

於：名古屋伏見ヤマハホール

名古屋オペラ協会

第6期研究生修了公演

演奏会形式による  
モーツァルト作曲  
コシ・ファン・トゥッテ(抜粋)  
～女はみんなこうしたもの～

と き：1990.3.6(火) PM7:00  
と ころ：名古屋伏見ヤマハホール  
(ヤマハ ZF)

入場無料

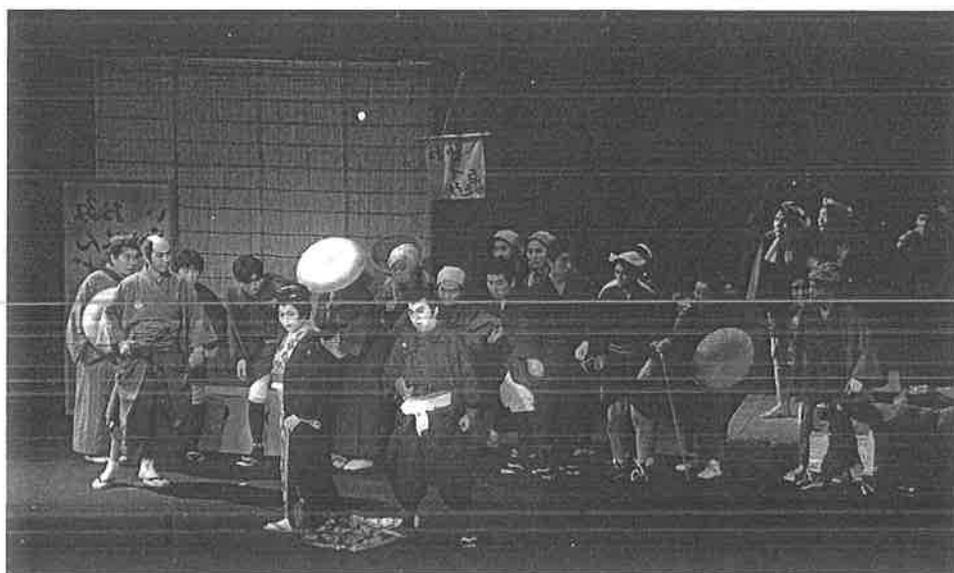
キャスト：

フィオルディリージ……成瀬江利子・川崎 裕子  
ドラベラ……………青木由香里・杉本 弓子  
デスピーナ……………久木 恵子  
グリエルモ……………松井 優二(賛助)  
フェルランド……………山田 正文(賛助)  
ドン・アルフォンゾ……松原 敬(賛助)



# 1990(平成2)年度

唐人お吉 1990年12月11日(火)・12日(水)



○スタッフ

指揮……………古谷誠一  
 演出……………小田健也  
 監修……………大賀寛  
 装置……………岡島茂夫  
 照明……………藤井幹伸  
 衣裳……………井上サチ子  
 メイク……………和泉瑤子  
 かつら……………神田かつら  
 音響……………(補)サウンド・ドライブ  
 舞台監督……………幾島道宣  
 大道具・小道具……………C.S.S.総合舞台  
 副指揮・合唱指揮……………吉川朗  
 演出助手……………藪内馨  
 野田万理恵  
 舞台監督助手……………野田百合江  
 山田雅代  
 杉本弓子  
 制作……………川島博  
 小林満  
 伊藤晶子  
 制作助手……………桑原貴  
 吉川朗  
 斎藤敏子  
 練習ピアノ……………伊藤真理  
 本多要子  
 新美麻利  
 鈴木真由美  
 笹島玉緒  
 合唱……………名古屋オペラ協会合唱団  
 管弦楽……………名古屋オペラ協会管弦楽団

○キャスト

お吉……………伊藤晶子(11日)  
 松波千津子(12日)  
 鶴松……………竹内将(11日)  
 野村富昭(12日)  
 ハリス……………大野静龍(11・12日)  
 ヒュースケン……………友森美文(11・12日)  
 下田奉行……………小林満(11・12日)  
 おせん婆……………中須賀悦子(11・12日)  
 お福……………取越康子(11日)  
 大野賀久子(12日)  
 仲居……………千田恭子(11日)  
 渡辺まみ(12日)  
 奉行所の侍……………川瀬信一郎(11・12日)  
 警護の侍……………松原敬(11日)  
 佐藤学(12日)  
 攘夷派の侍……………中野俊哉(11・12日)  
 村の男……………桑原貴  
 土屋詠二朗  
 野中正紀  
 村の女……………堀ノ内宏子  
 吉川友吏江  
 竹内久恵  
 みこし担ぎの人たち……………三雲一三  
 木下宏明  
 福熊秀昭  
 西尾栄儀  
 渡辺桂一  
 岩岡陽一朗  
 村の子供たち……………大西由起子  
 山田千秋  
 吉川彰  
 友森悠  
 吉川万吏江  
 吉川佳予子  
 みこし提供……………瑞穂区東栄町八幡社



## 日本オペラシリーズ以外の公演

### 土肥みゆき音楽講座 1990年6月14日(木)

受講者 千田 恭子  
堀ノ内宏子  
永友 博信

於：電気文化会館コンサートホール

### 第5回 準会員による日本歌曲の夕べ～中田喜直の作品を集めて

1990年4月25日(水)

於：電気文化会館コンサートホール

名古屋オペラ協会準会員による  
第5回 日本歌曲の夕べ  
中田喜直の作品を集めて  
1990年4月25日(水)午後6時45分開演  
全自由席1,500円  
名古屋電気文化会館コンサートホール  
(地下鉄伏見駅下車 4番出口より徒歩2分)

井手 敦子  
『六つの子供の歌』 歌曲・他

加藤 智子  
『魚とオレンジ』他

佐藤まゆみ  
『日本のおもちゃのうた』他

藤本 圭子  
『マチネ・ポエティック』による  
四つの歌 他

ソング 伊藤 真理  
編曲 磯辺 鴎子

主催 名古屋オペラ協会  
〒460-1101 名古屋市中区栄1-1-1 電話 052-231-7295

出演：

1. 井手敦子  
歌曲集「六つの子供の歌」 他
2. 加藤智子  
「魚とオレンジ」他
3. 佐藤まゆみ  
「日本のおもちゃのうた」他
4. 藤本圭子  
“マチネ・ポエティック” による  
四つの歌 他

第7期 研究生修了公演

セロ弾きのゴーシュ 1991年3月27日(水)

於：愛知県中小企業センター



指揮：堀江 幹雄 演出：太田 幸則

|       |                |        |
|-------|----------------|--------|
| キャスト： | 昼の部            | 夜の部    |
| ゴーシュ  | 竹内 久恵          | 川原 瑞穂  |
| 楽長    | 牛島 正隆(オペラ協会会員) |        |
| 猫     | 本田 浩子          | 安藤 泉   |
| かっこう  | 小川ふきえ          | 吉川友吏江  |
| 狸     | 青山 元子          | 遠山 直里  |
| ねずみ   | 相引ちとせ          | 大西小夜子  |
| 司会者   | 山田かおり          | 山田かおり  |
| 楽団員   | 第八期研究生         | 第八期研究生 |



# 1991(平成3)年度

修禪寺物語 1991年11月29日(金)・30日(土)

名古屋市民芸術祭'91

清水 脩 作曲・岡本綺堂 原作

## 歌劇 修禪寺物語 全1幕3場

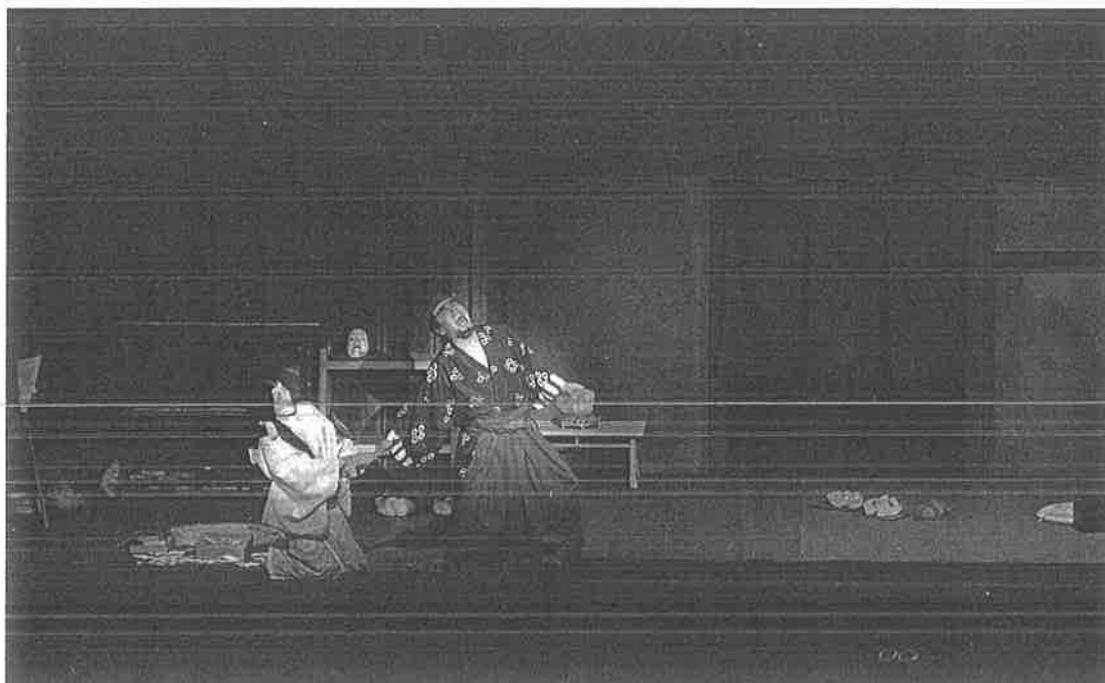
OSAMU SHIMIZU  
"A MASK-MAKER'S STORY" opera in one act, three scenes  
Libretto by Kizô Okamoto

'91年11月29日(金)6:30p.m.・30日(土)6:30p.m.

愛知文化講堂

主催/名古屋市民芸術祭実行委員会  
名古屋市・名古屋市教育委員会  
(財)名古屋市文化振興事業団  
名古屋オペラ協会

後援/愛知県教育委員会 協賛/三菱信託芸術文化財団



○スタッフ

指揮……………古谷誠一  
 演出……………坂東 梢  
 演出補……………坂東京子  
 監修……………大賀 寛  
 美術……………伊藤 三郎  
 照明……………児玉道久  
 衣裳……………松竹衣裳  
 かつら……………丸善かつら  
 メイク……………坂東京子  
 小道具……………若尾総合舞台  
 舞台監督……………牧村紀男  
 副指揮……………吉川 朗  
 演出助手……………矢田琴美  
 舞台監督助手……………大蔵聡子  
 制作……………川島 博  
 ………………小林 満  
 ………………伊藤晶子  
 ………………永友博信  
 制作助手……………吉川 朗  
 練習ピアノ……………新家麻利  
 ………………鈴木真由美  
 ………………堀江尚子  
 ………………伊藤真理  
 ………………山本孝子  
 管 弦 楽……………ソアー合奏団  
 ………………名古屋オペラ協会管楽合奏団



○キャスト

夜叉王……………永友博信(29日)  
 ………………澤 臨 達 晴(30日)  
 かつら……………鈴木真貴子(29日)  
 ………………大野賀久子(30日)  
 かえで……………渡辺まみ(29日)  
 ………………五島由美子(30日)  
 頼家……………土佐 誠(29日)  
 ………………荒井嗣雄(30日)  
 春彦……………長柄孝彦  
 僧……………川口 豊  
 行親……………川瀬信一郎  
 五郎……………神田豊寿  
 軍兵……………柳本知宣  
 ………………杉浦昌一  
 ………………柴田 剛  
 ………………岩竹伸治  
 ………………倉永直樹

日本オペラシリーズ以外の公演

オペラ・アリアの夕べ 1991年5月11日(土)

於：愛知文化講堂

指揮：古谷誠一 管弦楽：ナゴヤシティ管弦楽団

《椿姫》より

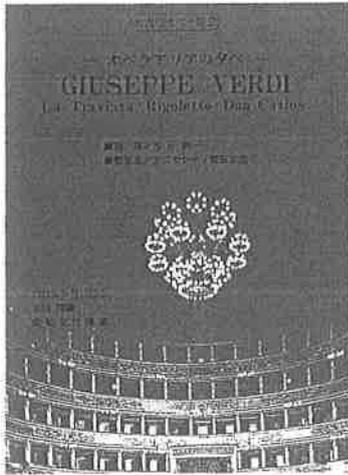
ああ、そはかの人か〜花から花へ 渡辺 まみ  
燃える心を 野村 富昭  
さようなら過ぎさった日よ 佐藤 和子  
パリを離れて 佐藤 和子/野村 富昭

《リゴレット》より

慕わしい人の名は 栗田 啓子  
ほほの涙が 土佐 誠  
祭りの日にはいつも 五島由美子/永友 博信  
愛する美しい乙女よ 五島由美子/伊藤美知子  
/土佐 誠/永友 博信

《ドン・カルロ》より

ヴェールの歌 伊藤美知子  
ひとり寂しく眠ろう 川口 豊  
世のむなしさを知る神 大野賀久子  
終わりの日は来た 永友 博信  
むごい運命よ 中須賀悦子



名古屋オペラ協会準会員・オペラ公演 ちいさな煙突掃除 1991年8月24日(土)

於：名古屋市芸術創造センター

名古屋オペラ協会準会員・オペラ公演



台 本：エリック・クロージャー 作 曲：ベンジャミン・ブリテン  
指 揮：川島 博 演 出：内山 千吉

| キャスト | 1 幕   | 2 幕        | 昼の部   | 夜の部   |
|------|-------|------------|-------|-------|
|      | ノーマン  | 黒人ボブ/トム    | 川口 豊  | 川口 豊  |
|      | マックス  | クレム/アルフレッド | 野村 富昭 | 野村 富昭 |
|      | ジェシー  | サム         | 小林 恵子 | 加藤 智子 |
|      | グラデス  | ミス・バゴット    | 野田百合江 | 伊藤美知子 |
|      | アンヌ   | ジュリエット     | 川原 瑞穂 | 川崎 裕子 |
|      | キャサリン | ゲイ         | 水野 裕子 | 渡辺 まみ |
|      | モニカ   | ソフィー       | 久木 恵子 | 竹内 久恵 |
|      | パメラ   | ローワン       | 鷲見 美保 | 堀ノ内宏子 |
|      | モーリン  | ジョニー       | 相引ちとせ | 吉川友東江 |
|      | マミー   | ヒュー        | 山田かおり | 青山 元子 |
|      | メイビス  | ティナ        | 小川ふきえ | 遠山 直里 |



第6回 準会員による日本歌曲の夕べ 1992年2月15日(土)

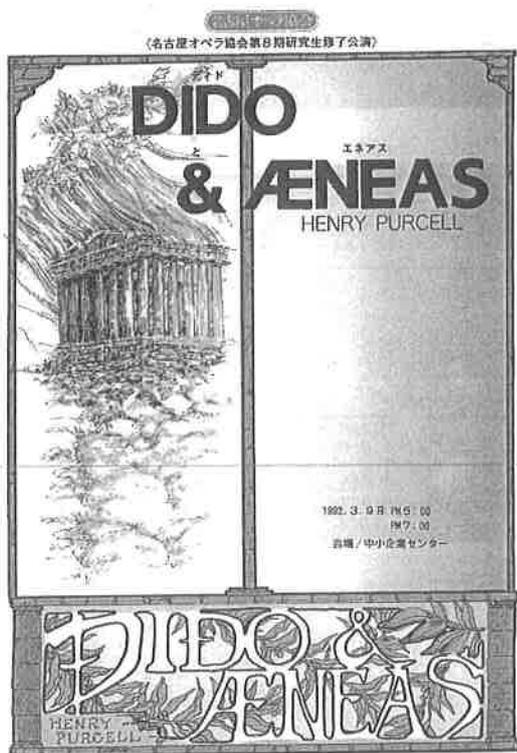
於：電気文化会館コンサートホール

- |             |                       |
|-------------|-----------------------|
| 出演：1. 野田百合江 | 別宮貞雄：歌曲集「淡彩抄」         |
| 2. 川崎裕子     | 中田喜直：たんぽぽ、ひなの日は 他     |
| 3. 村瀬千恵     | 〃：“マチネ・ポエティック”による四つの歌 |
| 4. 美口啓子     | 團伊玖磨：歌曲集「わがうた」        |
| 5. 川原瑞穂     | 中田喜直：サルビア、ねむの花 他      |
| 6. 堀ノ内宏子    | 山田耕筰：紫、兵士の妻の祈り 他      |

第8期 研究生修了公演

ディドとエアネス 1992年3月9日(月)

於：愛知県中小企業センター



指揮：堀江 幹雄 演出：太田 幸則

キャスト

- |                |                     |
|----------------|---------------------|
| ディド……………内田由美子  | エネアス……………野村富昭(賛助出演) |
| ベリンド……………細野ますみ | 侍女……………中野 稚子        |
| 魔女……………吉田 幸恵   | 小魔女1……………狩生 佳奈      |
| 小魔女2……………小橋 直子 | マーキュリー……………清水 千種    |
| 水夫……………永田裕美子   |                     |



# 1992(平成4)年度

春琴抄 1993年1月29日(金)・30日(土)

愛知芸術文化センター開館記念事業「あいちの芸術家たち」シリーズ  
名古屋オペラ協会創立十周年記念公演  
日本オペラシリーズ No.10

監修 大賀寛

谷崎潤一郎 原作

まえだ 純 台本

三木 稔 作曲

オペラ

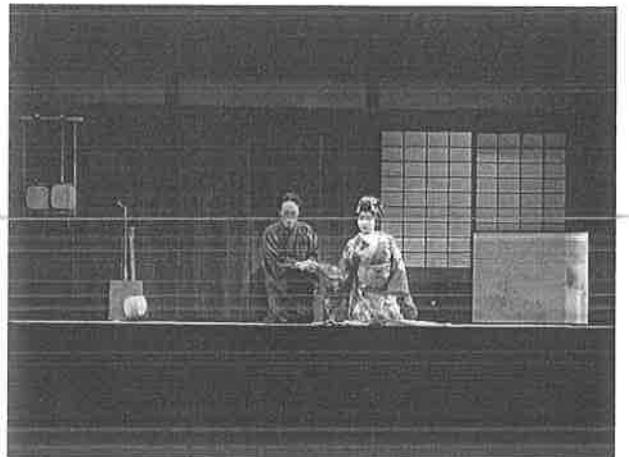
## 春琴抄

全二幕

総監督 横井園生

一九九三年一月二十九日(金)・三十日(土) 午後六時三十分  
愛知県芸術劇場大ホール

主催 名古屋オペラ協会・愛知県・愛知県文化振興事業団  
後援 名古屋市教育委員会・劇日本オペラ振興会・中部日本放送  
助成 日本芸術文化振興会・三菱UFJ芸術文化財団・五島記念文化財団



○スタッフ

監修……………大賀 寛  
 総監督……………横井 園生  
 指揮……………星出 豊  
 演出……………栗山 昌良  
 振付……………西川 好弥  
 装置……………川口 直次  
 照明……………服部 基  
 衣裳……………緒方規矩子  
 舞台監督……………小栗 哲家  
 演出助手……………池山奈都子  
 舞台監督助手……………桑原 貴  
 副指揮……………橋本英一  
 ………………堀江幹雄  
 ………………吉川 朗  
 合唱指揮……………永友博信  
 大道具……………東宝舞台株式会社  
 照明……………(株)若尾綜合舞台  
 ………………あかり組  
 小道具……………藤浪小道具  
 衣裳……………東京衣裳製  
 かつら……………丸善かつら  
 メイク……………イメージユ  
 演奏……………名古屋フィルハーモニー管弦楽団  
 ………………二十絃……………吉村七重  
 ………………三絃……………野村祐子  
 練習ピアノ……………伊藤真理・久野明子・山本晶子・本田要子  
 制作協力……………名古屋オペラ協会  
 ………………株式会社 クリエイション  
 ………………ミュージックオフィス ワニ  
 TKS企画

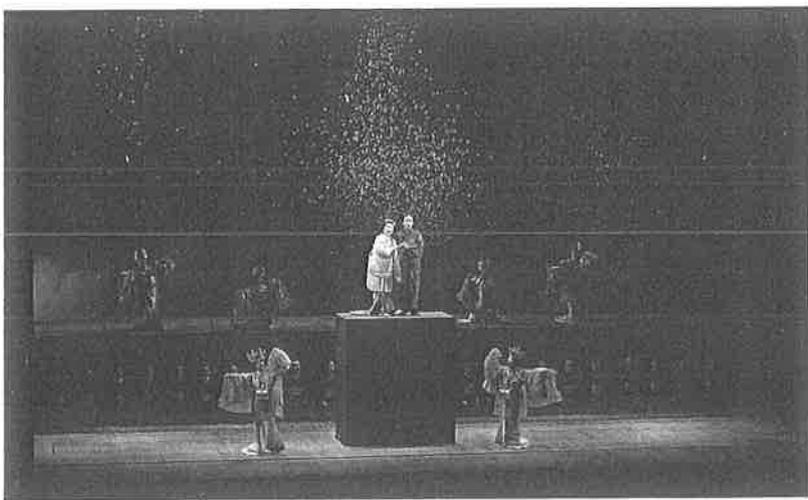
○キャスト

春 琴……………伊藤晶子(29日)  
 ………………松波千津子(30日)  
 佐 助……………小林 満(29日)  
 ………………土佐 誠(30日)  
 安左衛門……………川口 豊(29日)  
 ………………小原恒久(30日)  
 しげ 女……………伊藤美知子(29日)  
 ………………中須賀悦子(30日)  
 てる女・ソプラノソロ……………佐藤和子(29日)  
 ………………千田 恭子(30日)  
 利太郎……………荒井嗣雄(29日)  
 ………………中島基晴(30日)  
 ヴォカリーゼ……………大野賀久子(29日)  
 ………………五島由美子(30日)  
 初・お糸……………村瀬千恵(29日)  
 ………………野村弥生(30日)  
 小夜・お駒……………美口啓子(29日)  
 ………………内田由美子(30日)  
 萬 子……………竹内久恵(29日)  
 ………………三尾子嗣枝(30日)  
 菊 次……………川原瑞穂(29日)  
 ………………吉田幸恵(30日)  
 梅 吉……………山田かおり(29日)  
 ………………青山元子(30日)  
 宗兵衛……………小原恒久(29日)  
 ………………川口 豊(30日)  
 賛助出演  
 久助・竹造……………南川智之(両日)  
 伝助・木造……………西永 望(両日)  
 真 平……………西野 真(両日)  
 三 平……………柳本知宣(両日)

合 唱

舞 踊

……………名古屋オペラ協会合唱団  
 遠山直里・本田浩子・小橋直子  
 狩生佳奈・中野稚子・細野ますみ  
 愛知智絵・石井由美子・犬飼真由美  
 江間葉子・金原万里・清水恵子  
 杉山祐子・鈴木千恵子・則武里枝  
 森国智保・加藤紀世美・加藤美紀  
 小泉洋子・佐藤菜美子・竹中かんな  
 田中雅子・鳥居美紀・土井美佳子  
 松永みき・村瀬淳子・近藤朗子  
 川隅友紀雄・加藤武志  
 西川里喜侯・西川好恵・西川好春  
 西川好風・西川佳好・松本絨子  
 本多孝子・三浦沙也子



## 日本オペラシリーズ以外の公演

名古屋オペラ協会創立10周年記念／名古屋オペラ協会準会員による「モーツァルト (W. A. Mozart) アリアとアンサンブルの夕べ」・オペラ「フィガロの結婚」・「魔笛」より 1992年7月23日(木)

於：名古屋市芸術創造センター



指揮：古谷 誠一 演奏：名古屋オペラ協会アンサンブル  
出演：野村 弥生・堀ノ内宏子・加藤 智子・竹内 久恵・安藤 泉・  
大西小夜子・永友 博信・川口 豊・野村 富昭・川原 瑞穂・  
村瀬 千恵・小林 恵子・水野 裕子・相引ちとせ・中須賀悦子・  
鷺見 美保・牛島 正隆・小川ふきえ・川崎 裕子・加賀 恵子・  
遠山 直里



## 第7回 準会員による日本歌曲の夕べ 1993年3月16日(火)

於：電気文化会館コンサートホール

|         |                          |
|---------|--------------------------|
| 出演：加賀恵子 | 野ばら、母の声 他／山田耕筰           |
| 小橋直子    | 六つの子供の歌／中田喜直             |
| 鷺見美保    | 瞳、空 他／小林秀雄               |
| 山田かおり   | 四季の歌／中田喜直                |
| 吉田幸恵    | 抒情歌 他／團伊玖磨               |
| 細野ますみ   | “マチネ・ポエティック”による四つの歌／中田喜直 |

第9期 研究生修了公演

フィガロの結婚 1993年4月8日(木)

於：愛知県芸術劇場小ホール



指揮：堀江 幹雄 演出：太田 幸則

| キャスト    | 5:00の部 | 7:30の部 |
|---------|--------|--------|
| スザンナ    | 江間 葉子  | 愛知 智絵  |
|         | 石井由美子  | 鈴木千恵子  |
| フィガロ    | 川口 豊   | 川口 豊   |
| 伯爵      | 土佐 誠   | 土佐 誠   |
| 伯爵夫人    | 犬飼真由美  | 森国 智保  |
|         | 田中 豊子  | 清水 恵子  |
| ケルビーノ   | 深見 裕子  | 則武 里枝  |
| マルチェリーナ | 金原 万里  | 金原 万里  |
| バルバリーナ  | 杉山 祐子  | 杉山 祐子  |

# 1993(平成5)年度

夕 鶴 1994年3月11日(金)・12日(土)

日本オペラシリーズNo.11

## 歌 劇 夕 鶴

一幕二場

木下順二=原作 團 伊玖磨=作曲

主催●名古屋オペラ協会  
後援●愛知県教育委員会  
名古屋市教育委員会

愛知県文化振興基金事業  
三菱信託芸術文化財団助成

1994年3月11日(金)PM6:30

3月12日(土)PM3:00, PM6:30

名古屋市芸術創造センターホール



スタッフ

指揮……………古谷誠一  
 演出……………太田幸則  
 舞台美術……………水谷雄司  
 照明プラン……………児玉道久  
 衣裳……………幅上智里  
 かつら……………神田かつら  
 メイク……………真津田美沙子  
 振付……………坂本久美子  
 舞台監督……………大蔵聡子  
 合唱指揮……………谷 鈴代  
 副指揮……………堀江幹雄  
 吉川 朗  
 演出助手……………桑原 貴  
 大道 具……………若尾総合舞台  
 管弦楽……………名古屋オペラ協会管弦楽団  
 練習ピアノ……………早瀬洋子  
 山口知子  
 監 修……………小林 満



キャスト

つう……………藤本圭子(11日夜)  
 五島由美子(12日夜)  
 渡辺まみ(12日夜)  
 神田豊寿(11日夜)  
 長柄孝彦(12日夜)  
 中島基晴(12日夜)  
 運 ず……………牛島正隆(全日)  
 惣 ど……………川口 豊(全日)  
 踊 手……………大口順子(全日)  
 合 唱……………名古屋少年少女合唱団(全日)  
 堀沢 元・中西公平・岡田俊一  
 鏡味葵生・山本裕美・向井須美  
 田中玲菜・美口 西・大原下聡

## 日本オペラシリーズ以外の公演

### 名古屋市市民芸術祭'93協賛「オペラ・アリアの夕べ」第3回 1993年11月16日(火)

於：愛知県芸術劇場コンサートホール



指揮：古谷 誠・ 管弦楽：ナゴヤシティ管弦楽団  
 出演：渡辺 まみ・土佐 誠・鈴木真貴子・中須賀悦子・牛島 正隆  
 千田 恭子・松波千津子・小林 満・栗田 啓子・大野賀久子  
 永友 博信



### 第8回 準会員による日本歌曲の夕べ 1994年2月25日(金)

於：電気文化会館ザ・コンサートホール



- |                     |             |
|---------------------|-------------|
| I. 森 園 智 保 ソプラノ     | ピアノ伴奏 中村淑子  |
| 竹田由彦：あじさいの雨         | 西岡光秋 詩      |
| 清水 肇：こおしの花          | 宮田淑子 詩      |
| 入江 薫：海のしらべ          | 藤 摩 忠 詩     |
| II. 江 間 葉 子 ソプラノ    | ピアノ伴奏 矢崎友味子 |
| 別宮真雄：さくら横ちよう        | 加藤周一 詩      |
| 中田喜直：塙雷の歌           | 清水みのる 詩     |
| 中田喜直：鶴が渡る           | 新谷彰久 詩      |
| III. 大 西 小 夜 子 ソプラノ | ピアノ伴奏 本多要子  |
| 團 伊玖磨：「わがうた」        | 北山冬一郎 詩     |
| I. 序の歌              |             |
| II. 孤独とは            |             |
| III. ひぐらし           |             |
| IV. 追悼歌             |             |
| V. 紫陽花              |             |
| IV. 内 田 由 美 子 ソプラノ  | ピアノ伴奏 秋野裕子  |
| 別宮真雄：「淡彩抄」          | 大木修夫 詩      |
| I. 池 VI. 燈          |             |
| II. 鶯 VII. 天の川      |             |
| III. 大團子 VIII. 宵密掛  |             |
| IV. 涼雨 IX. 鶉        |             |
| V. 別後 X. 春近き日に      |             |
| V. 竹 内 久 恵 ソプラノ     | ピアノ伴奏 水野晶子  |
| 中田喜直：「魚とオレンジ」       | 阪田寛夫 詩      |
| 1. はなやぐ朝            |             |
| 2. 願                |             |
| 3. あいつ              |             |
| 4. 魔法のリンゴ           |             |
| 5. 艶やかなる歌           |             |
| 6. ケッコン             |             |
| 8. らくだの耳から(魚とオレンジ)  |             |

第10期 研究生修了公演

たそがれは逢魔の時間 1994年3月30日(水)・31日(木) 於：愛知県芸術劇場小ホール

指揮：永友 博信 演出：太田 幸則

名古屋オペラ協会

名古屋オペラ協会第10期研究生修了公演

# たそがれは

おうま

## 逢魔の時間

脚本 永友 博信  
演出 太田 幸則

FL 高木 直喜  
OL 瀬戸 和男  
VN 森 佐登美  
YE 星 野順一  
FOL 白川 和彦  
PL 渡部 真理

演出助手 森原 貴  
美術 石川 謙  
照明 古川 晴  
衣裳 堀上 智里

大島 弓子 / 原作  
青島 広志 / 作曲

|              |        |
|--------------|--------|
| 30日          | 31日    |
| 男 小泉 洋子      | 竹谷 かな子 |
| 男の心 佐藤 栄見子   | 加藤 美紀  |
| 妻 村瀬 淳子      | 田中 雅代  |
| 少女(前) 鳥居 美紀  | 松永 みき  |
| 少女(後) 加藤 紀世美 | 土井 美佳子 |

1994. 3. 30(水) PM6:30開演  
31(木)  
愛知県芸術劇場 小ホール  
入場料 2,500円(全自由席)



キャスト

- 男……………小泉 洋子(30日)
- 竹谷 かな子(31日)
- 男の心……………佐藤 栄見子(30日)
- 加藤 美紀(31日)
- 妻……………村瀬 淳子(30日)
- 田中 雅代(31日)
- 少女(前)……………鳥居 美紀(30日)
- 松永 みき(31日)
- 少女(後)……………加藤 紀世美(30日)
- 土井 美佳子(31日)
- 少女時代の妻…江間 葉子(準会員)(30日)
- 森国 智保(準会員)(31日)
- 少女達……………第一期研究生(30・31日)



# 1994(平成6)年度

袈裟と盛遠 1995年2月1日(水)・2日(木)

愛知県文化振興事業団第29回公演  
名古屋オペラ協会日本オペラシリーズNo.12

監修 大賀 寛

台本 山内 泰雄

作曲 石井 敏

オペラ

## 袈裟と盛遠

「平家物語」より 二幕

総監督 福田富子

一九九五年二月一日(水)・二日(木) 午後六時三十分  
愛知県芸術劇場大ホール

主催 名古屋オペラ協会・財団法人愛知県文化振興事業団・愛知芸術文化センター  
後援 東海テレビ放送・愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会  
助成 日本芸術文化振興基金・第五島記念文化財団・アサヒール芸術文化財団



スタッフ

監修……………大賀 寛  
 総監督……………福田 富子  
 指揮……………星出 豊  
 演出……………栗山 昌良  
 按舞……………西川 好弥  
 美術……………鈴木俊朗  
 照明……………室伏生大  
 衣裳……………緒方規矩子  
 舞台監督……………中村 眞理  
 演出助手……………岩田 達示  
 副指揮……………倉知 竜也  
 合唱指揮……………西野 淳  
 吉川 朗  
 舞台監督助手……………山本 哲也・大川 裕  
 大蔵 聡子・山崎 由紀子  
 北田 稜子・野村 八千代  
 平井 徹  
 大道具製作……………東宝 舞台  
 大道具操作……………若尾綜合舞台  
 小道具……………藤浪 小道具  
 ステージ・クルーBAU  
 衣裳……………松竹衣裳  
 かつら……………丸 善  
 メイク……………田中 尚美  
 照明操作……………あかり組・若尾綜合舞台  
 音響プラン……………小野 隆浩・仙頭 聡  
 音響操作……………若尾綜合舞台  
 管 弦 楽……………ナゴヤンティ管弦楽団  
 練習ピアノ……………大橋 絵理・山口 雅子  
 山口 知子・竹内 理恵  
 制作助手……………桑原 貴・増田 智子  
 水野 裕子

キャスト

遠藤盛遠……………(賛助出演) 澤脇 遠晴 (1日)  
 小原 恒久 (2日)  
 袈 装……………松波 千津子 (1日)  
 近藤 真理子 (2日)  
 渡辺の渡……………土佐 誠 (1日)  
 (賛助出演) 古沢 泉 (2日)  
 平清盛……………(賛助出演) 林 剛一 (両日)  
 白 菊……………波辺 まみ (1日)  
 鈴村 真貴子 (2日)  
 佐藤 義清……………(賛助出演) 神田 豊寿 (両日)  
 呪 師……………川口 豊 (両日)  
 勢至菩薩……………水谷 朋子 (1日)  
 千田 恭子 (2日)  
 鬼子母神……………中須賀 悦子 (両日)  
 白拍子(舞)……………(賛助出演) 西川 好恵  
 (賛助出演) 西川 佳好  
 竹内 久恵  
 合 唱……………名古屋オペラ協会合唱団  
 (ソプラノ) 大崎 真由美・岩附 章代・遠藤 美和子・加藤 紀世美  
 狩生 佳奈・神田 由利・鈴木 智恵・長沼 由江  
 宮川 佳子・門脇 玲子・吉田 友紀  
 (アルト) 青木 なつ恵・石井 月子・伊藤 真奈子・伊藤 智美  
 瀬 織 宏子・鈴木 陽子・須藤 倫代・中村 恭子  
 松葉 千江美  
 (テノール) 浅野 圭一・長谷川 謙一・日高 善啓・藤本 淳司  
 宮崎 智永・吉田 勝紀・祖父江 秀明  
 (バ ス) 天野 環二・荒川 晃・小田 康雄・加藤 尚二  
 塚本 伸彦・西永 望・星野 名生規・牧野 英久  
 宮下 暁・後藤 一郎・春田 哲之

助 演……………藤間 克貴・松本 健・柏木 陽・曾根 康嗣  
 守屋 隆史  
 制 作……………名古屋オペラ協会  
 表紙題字・中根 海堂



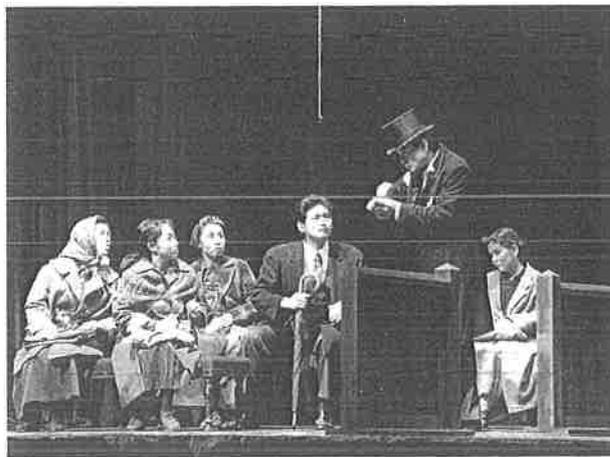
日本オペラシリーズ以外の公演

室内オペラシリーズNo.3「領事」全3幕 1994年7月13日(水)・14日(木)

於：名古屋市芸術創造センター

台本・作曲 G-C.メノッティ 指揮：古谷 誠一 演出：松本 重孝

| キャスト：    | 13日   | 14日   |
|----------|-------|-------|
| ジョン・ソレル  | 新実 真琴 | 滝沢 博  |
| マグダ・ソレル  | 千田 恭子 | 内田由美子 |
| 母親       | 中須賀悦子 | 伊藤美知子 |
| 秘密警察官    | 川口 豊  | 川口 豊  |
| 秘書       | 堀ノ内宏子 | 堀ノ内宏子 |
| コフナー氏    | 安田 健  | 安田 健  |
| イタリアの女   | 竹内 久恵 | 竹内 久恵 |
| アンナ・ゴメス  | 細野ますみ | 石井 弓子 |
| ヴェラ・ポロネル | 野村 弥生 | 清水 恵子 |
| 魔術師      | 長柄 孝彦 | 長柄 孝彦 |
| アッサン     | 森山 孝光 | 森山 孝光 |



日本の作曲家による歌曲の夕べ 山田耕筰・信時潔作品集 1994年9月13日(火)

日本の作曲家による歌曲の夕べ  
山田耕筰・信時 潔 作品集

於：電気文化会館ザ・コンサートホール

出演：堀ノ内宏子／山田耕筰～恋のうたを集めて～

- 藤本 圭子／信時 潔 茉莉花・小倉百人一首より
- 栗田 啓子／山田耕筰 幽韻・風に寄せてうたへる春のうた、他
- 佐藤 和子／山田耕筰 からたちの花、唄、他
- 神田 詩朗／信時 潔 「鶯の卵」より、他



1994年9月13日(火)PM9:30 電気文化会館ザ・コンサートホール



平成6年度 東郷高等学校芸術文化鑑賞会鑑賞のしおり

於：東郷高等学校体育館

歌曲と日本のオペラのつどい 名古屋オペラ協会 1994年11月19日(土)



第11期 研究生修了公演

ヘンゼルとグレーテル 1995年3月28日(火)・29日(水) 於：名古屋市芸術創造センター

指揮：永友 博信 演出：太田 幸則



キャスト

- ヘンゼル……(1、2幕)伊藤嘉奈子(28日)  
杉浦 薫(29日)
- (3幕) 木村亜由美(28日)  
鎌仲裕美子(29日)
- グレーテル……(1、2幕)浅田智子(28日)  
市石真美(29日)
- (3幕) 松田園子(28日)  
山崎聖子(29日)

- お父さん……………牧野英久(12期生)
- お母さん……………岩附章代
- 魔女……………中村恭子
- 眠りの精……………平岩雅子
- 露の精……………平岩雅子
- 子供たち……………名古屋オペラ協会12期研究生



# 1995(平成7)年度

海の子守歌 1995年9月27日(水)・28日(木)

名古屋オペラ協会  
日本オペラシリーズNo.13

日本芸術文化振興基金助成

歌劇

# 海の子守唄

全二幕

原作 ● L・M・シムツ  
台本 ● 山崎愛子  
作曲 ● 林谷英治



1995.9.27(水)・28(木) P.M.5:45開場  
P.M.6:30開演  
名古屋市芸術創造センター (地下鉄東山線「新栄」下車  
北へ徒歩5分)  
主催/名古屋オペラ協会  
後援/名古屋市教育委員会  
愛知県教育委員会



スタッフ

指揮……………永友博信  
 演出……………池山奈都子  
 美術……………浜中優  
 照明……………古川靖  
 音響……………上野慶  
 舞台監督……………大蔵聡子  
 舞台監督助手……………野村八千代・加藤香  
 メイク……………真津田美沙子  
 衣裳……………幅上智里・野地まほみ  
 副指揮……………渡辺康  
 練習ピアノ……………竹内理恵・高橋直子・守屋美穂  
 制作……………桑原貴  
 大道具製作……………若尾緑合舞台  
 演奏……………ソアーチエンバーオーケストラ  
 合唱……………名古屋オペラ協会合唱団



キャスト

さき……………千田恭子(27日)  
 きぬ……………五島由美子(28日)  
 しの……………竹内久恵  
 六郎治……………水谷朋子  
 若い男……………井原義則(27日賛助出演)  
 若い女……………野村富昭(28日)  
 中年の女……………鑄木勇樹(賛助出演)  
 老人……………佐藤雅美(27日)  
 老女……………盛かおる(28日)  
 旅の僧……………水野妃佐子(27日)  
 網元……………野村弥生(28日)  
 合唱……………川口豊  
 ソプラノ……………江崎裕子  
 メソソプラノ……………堀保司(賛助出演)  
 アルト……………滝沢博(賛助出演)  
 テノール……………青木なつ恵・石田みどり・加藤万紀子・鈴木智恵・鈴木陽子  
 バス……………須藤倫代・則武千代子・古田直子・安田江理子  
 ……川本昭子・久世美紀子・近藤由香・林晶子・松葉千江美  
 ……村松由理  
 ……伊藤嘉奈子・伊藤智美・遠藤美和子・大田恵子・瀬藤宏子  
 ……酒井浩子・杉浦薫・吉田弘子  
 ……市川勇樹・日高義啓・藤本敦司・高崎智水  
 ……赤尾連洋・嵐友和・瀬藤正浩・松原敬・山原幸治

日本オペラシリーズ以外の公演

第9回 準会員による日本歌曲の夕べ〈青島広志の世界〉 1995年4月27日(木)

於：電気文化会館 ザ・コンサートホール



● 携ってきた歌 詞曲 青島広志

|       |                                    |                        |                      |
|-------|------------------------------------|------------------------|----------------------|
| 風     | 細野ますみ<br>内田由美子                     | 狩生佳奈                   | ピアノ<br>青島広志<br>大橋 隆理 |
| たんぽぽ  | 細野ますみ<br>上野 美穂子                    | 石井 弓子<br>狩生佳奈          | 作曲 三好流清<br>作曲 宇田草置   |
| 花の街   | 石井 弓子<br>清水 薫子                     | 杉山 祐子                  | 作曲 辻野成子<br>作曲 宮ひさ重   |
| 待ちぼうけ | 石井 弓子<br>清水 薫子                     | 杉山 祐子                  | 作曲 北原白秋<br>作曲 山田洋輝   |
| 里の秋   | 細野ますみ<br>内田由美子                     | 狩生佳奈                   | 作曲 斎藤誠夫<br>作曲 斎藤 秀   |
| 穂と稈様  | 石井 弓子<br>土井 美穂子<br>杉山 祐子<br>内田 由美子 | 細野ますみ<br>狩生佳奈<br>清水 薫子 | 作曲 青島八上<br>作曲 中山晋平   |

● 歌曲集「風にいろをぬりたいな」 作詞 高橋 睦郎

|        |          |        |          |
|--------|----------|--------|----------|
| 4月のうた  | 木のなか     | 水野 香穂  | ピアノ 青島広志 |
| 5月のうた  | 風をぬりたい   | 竹内久恵   |          |
| 6月のうた  | 雨のわすれもの  | 狩生佳奈   |          |
| 7月のうた  | おへぎの梅    | 金藤 万葉  |          |
| 8月のうた  | ひみつ      | 内田 由美子 |          |
| 9月のうた  | あらしの夜    | 金藤 万葉  |          |
| 10月のうた | おちばのよなら  | 清水 池子  |          |
| 11月のうた | ふしぎな鑽石   | 竹内久恵   |          |
| 12月のうた | 夜空のクリスマス | 清水 池子  |          |
| 1月のうた  | 一月のにおい   | 狩生佳奈   |          |
| 2月のうた  | 雪の結晶     | 水野 香穂  |          |
| 3月のうた  | 木の枝      | 内田 由美子 |          |

● 万葉集による四つの小品

|                               |          |
|-------------------------------|----------|
| ソプラノ 水野 香穂                    | ピアノ 青島広志 |
| 1 あかむすみ野野行を 輝野行を 野守はまずや言が輪廻る  | 藤田王      |
| 2 味酒 三輪の山                     | 藤田王      |
| 3 三輪山をしめし聞すか雲だにも 携あらしむ隙とムベしや  | 藤田王      |
| 4 雲降つとわが悲ひをれば わが眼のすだれ鳥かし秋の風吹く | 藤田王      |
| ソプラノ 竹内久恵                     |          |
| 風をだに恋ふるはともし 風をだに愛ひし待たば 何か囁かむ  | 藤田王      |
| ソプラノ 水野 香穂                    |          |
| 7 鳥田原に鳥鳴りせむと月降れば 酒もかひぬきはこぼ出でな | 藤田王      |

● ショート・ショート・オペレッタ 「夜だけまほうつかい」 作 鈴木 悦夫

|          |            |            |
|----------|------------|------------|
| 指揮:小林 満  | 演出:青島広志    | 舞台監督:水野 裕子 |
| ピアノ:久野明子 | 照明:古川 靖    |            |
| キャスト     | リラ子:石井 弓子  | 比:清水 薫子    |
|          | 足 神:細野ますみ  | 深母のママ:狩生佳奈 |
|          | お父さん:杉山 祐子 | お母さん:土井美穂子 |

小原村オペラ鑑賞会／ヘンゼルとグレーテル 1995年12月9日(土)

於：小原村中央公民館

指揮：永友 博信 演出：太田 幸則



キャスト

|        |            |
|--------|------------|
| ヘンゼル   | 近藤亜由美      |
| グレーテル  | 松田 園子      |
| お父さん   | 野村 富昭      |
| お母さん   | 岩附 章代      |
| お菓子の魔女 | 中村 恭子      |
| 眠りの精   | 鎌仲裕美子      |
| 露の精    | 市石 真美      |
| 子供達    | 小原村児童合唱教室生 |



NEW YEAR  
オペレッタの  
夕べ 男と女の恋のつなひき



NEW YEAR オペレッタの夕べ 男と女の恋のつなひき  
1996年1月11日(木) 於：愛知県芸術劇場コンサートホール

「伯爵令嬢マリツア」

●ソプラ マーニョのアリア  
●ソプラ ウィーン愛を込めて  
●ソプラ マリツア結婚の夜  
●二重唱 戻ってきた子供の帰一様止  
●ソプラ 今から20年後  
●二重唱 ヴァラッシュェインに付こう

(マーニョ) 中野賢智子  
(タタロ) 飯本真樹  
(マリツア) 星田まゆみ  
(リマウ) 龍かおる  
(伯爵夫人) 伊藤美加子  
(マリツア) 星田まゆみ

[Kálmán Áron (1878-1956)]

「メリー・ウィドウ」より

第1幕  
●序 幕  
●ハンナの登場とアンゼンバハ  
●二重唱  
●フィナーレ

(ヴァラッシュェイン、カミーユ、サンブリオッシュ、フェウラ、カスカーズ、クロゼー、金曜)  
(ハンチ、サンブリオッシュ、カスカーズ、金曜)  
(ヴァラッシュェイン、カミーユ)  
●フィナーレ

[F. Lehár (1870-1948)]

「白馬亭にて」

●二重唱 馬場の白馬亭  
●ソプラ 戻って来ない  
●二重唱 夜の散歩のワグネル  
●ソプラ ゼルツカンマーグートでは  
●二重唱 ジョナスムントのせいじゃない  
●ソプラ 良縁の敵—人生一運は  
●ソプラ 人生一運は  
●二重唱 二人のタンゴ

(白ゼツカ) 千田幸子  
(シヤムレット) 小原弘夫  
(白ゼツカ) 千田幸子  
(クレムリン) 藤田隆子  
(劇) 川口松  
(白ゼツカ) 千田幸子  
(リマウ—カミン) 藤田隆子

[B. Benatzky (1844-1927)]

第2幕

●3重唱とヴィリアの歌  
●主簿の狂言  
●二重唱と狂言  
●フィナーレ

(ハンチ、金曜)  
(ダニロ、フェリス、サンブリオッシュ、カスカーズ、クロゼー、オグダノヴィッチ、ブリヂッチュ)  
(ヴァラッシュェイン、カミーユ)  
●フィナーレ



第10回 準会員による日本歌曲の夕べ〈大中 恩の世界〉 1996年3月22日(金)

於：電気文化会館 ザ・コンサートホール

☆ トークコーナー「大中 恩のおしゃべり」 大 中 恩

1 明日のラブソング

歌曲集「いまは離陸のとき」 詞 江 岡 章 子

盛 かおる 近藤 亜由美 酒 井 浩 子  
ピアノ：高橋 寛 樹

- 1 おじさま お茶を飲みましょう
- 2 借りてきたネコの子のように
- 3 離陸のとき
- 4 鬼にわらわれる
- 5 あなたに
- 6 さわさわさわ
- 7 帯にのった魔女

2 歌曲集「愛ゆえに」

詞 上 田 寛

竹 内 久 恵 吉 川 友 吏 江  
ピアノ：高橋 寛 樹

- 1 こんな夜に
- 2 いつもあなたと
- 3 ふたりのうた
- 4 小雨の街を
- 5 翔ける
- 6 あなたも
- 7 わたしには

3 歌曲集「恋のミステリー」

詞 内 山 登 美 子

内 田 由 美 子 松 田 園 子  
ピアノ：高橋 寛 樹

- 1 風が囁くとき
- 2 ひとつのレモン
- 3 三月
- 4 お隣さまとキスをした
- 5 恋のミステリー

4 まわる まわる うた —十二のおはなし— 詞 服 田 寛 夫

杉 浦 薫 内 田 由 美 子 黄 池 貴 子

語り：伊藤 高奈子  
ピアノ：大橋 絵理  
演出：太田 幸則  
照明：古川 晴

- 1 あさちゃんのうち
- 2 ゆきおくと雪
- 3 花ちゃんが泣いた
- 4 小川先生のおがわ
- 5 うたちゃんのでこぼう
- 6 うたちゃんが出会ったかたつむり
- 7 まいちゃんとお海の子
- 8 なみちゃんどじょう
- 9 たくちゃんが見た馬
- 10 まっちゃんの秋
- 11 たみお先生の返事
- 12 ゆめお姉さんのクリスマス

第12期 研究生修了公演

ヘンゼルとグレーテル 1996年2月22日(木)・23日(金) 於：名古屋市芸術創造センター



Hänsel und Gretel

ヘンゼルとグレーテル

1996年2月22日(木) 午後7:00開演

23日(金) 午後8:00開演

名古屋市芸術創造センター

指 揮：永友 博信 演 出：太田 幸則

|               |        |       |
|---------------|--------|-------|
| キャスト          | 22日    | 23日   |
| ヘンゼル……(1、2幕)  | 額 纈 宏子 | 伊藤 智美 |
| (3幕)          | 鈴木 陽子  | 宮川 佳子 |
| グレーテル……(1、2幕) | 吉田 友紀  | 鈴木 智恵 |
| (3幕)          | 須藤 倫代  | 松葉千江美 |
| 父親……          | 牧野 英久  | 牧野 英久 |
| 母親……          | 門脇 玲子  | 遠藤美和子 |
| 魔女……          | 青木なつ恵  | 安田江里子 |
| 眠りの精……        | 淵田裕美子  | 淵田裕美子 |
| 露の精……         | 長沼 由江  | 長沼 由江 |



# 1996(平成8)年度

額田女王 1996年11月3日(日)・4日(月)

愛知県文化振興事業団第55回公演'96  
名古屋オペラ協会日本オペラシリーズ No 14

監修 大賀 寛  
台本 原嘉壽子  
作曲 原嘉壽子

オペラ

## 額田女王

総監督 福田富子

原作 井上 靖

浜松市委嘱作品  
全四幕

一九九六年十一月三日(日)午後六時三十分開演  
四日(月)振替 午後二時開演  
愛知県芸術劇場 大ホール

主催 名古屋オペラ協会、愛知県文化振興事業団、愛知芸術文化センター  
後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会  
助成 愛知県芸術文化振興基金、五島記念文化財団  
三愛百貨芸術文化財団、アサヒビール芸術文化財団、花王芸術文化財団  
協賛 額田町



スタッフ

総監督……………福田富子

指揮……………星出豊

演出……………栗山昌良

衣裳……………緒方規矩子

美術……………島次郎

照明……………成瀬一裕

振付……………藤間藤三郎

舞台監督……………中村眞理

副指揮……………吉川朗

演出助手……………倉知竜也

振付助手……………岩田遠示

衣裳助手……………藤間菜央

……………前田文子

舞台監督助手……………山本哲也・山崎あきら

……………高橋直美・三津久

……………(ステージクルーBAU)

……………大蔵聡子・服部基子

……………藤井良光・中村豊

……………(若尾綜合舞台)

……………名古屋オペラ協会

メイク……………四方田公子

照明操作……………あかり組

音響デザイン……………若尾綜合舞台

音響操作……………小野陸治

……………仙頭聡

……………(若尾綜合舞台)

キャスト

額田女王……………佐藤ひさら(3日)

中大兄皇子……………近藤真理子(4日)

大海人皇子……………小原恒久(3日)

有間皇子……………澤脇遠晴(4日)

中臣鎌足……………持木弘(3日)

鏡女王……………井原義則(4日)

女帝……………長柄孝彦(3日)

老侍女……………鶴木勇樹(4日)

陰陽師……………川口豊(前日)

……………千田恭子(3日)

……………出田光代(4日)

……………中須賀悦子(前日)

……………江崎裕子(3日)

……………水谷朋子(4日)

……………澤脇遠晴(3日)

……………小原恒久(4日)

……………(ソプラノ)

……………(メゾ・ソプラノ/アルト)

……………(テノール)

……………(バリトン/バス)

……………(ソプラノ)

……………(メゾ・ソプラノ/アルト)

……………(テノール)

……………(バリトン/バス)

……………(ソプラノ)

……………(メゾ・ソプラノ/アルト)

……………(テノール)

……………(バリトン/バス)

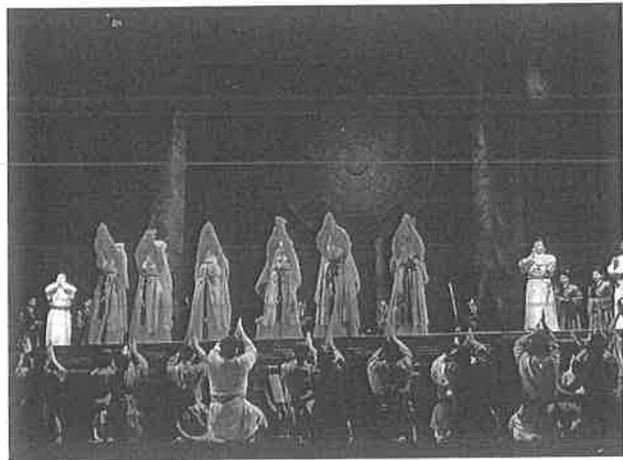
……………(ソプラノ)

……………(メゾ・ソプラノ/アルト)

……………(テノール)

……………(バリトン/バス)

……………(ソプラノ)



日本オペラシリーズ以外の公演

星出 豊 音楽講座 I オペラ「フィガロの結婚より」レティタ ティヴォの歌い方  
1997年1月22日(水)

名古屋オペラ協会

星出 豊  
音楽講座  
I

モーツァルトのオペラ誕生からレチタティーヴォの歌い方まで  
～コメディ・オ・ラルタ喜劇コメディ・フランセーズを軸に編み出したフィガロとは?～

W. A. MOZART 「フィガロの結婚」より  
No. 6 第1幕 第4場  
No. 14 第2幕 第7場  
第8場  
No. 18 第3幕 第5場  
No. 20 第3幕 第10場

受講者 水谷 朋子  
内田 由美子  
盛 かおる  
中野 悦子  
長瀬 孝彦  
牛島 正隆  
滝沢 博  
他

於：電気文化会館 ザ・コンサートホール

講師：星出 豊

受講生：水谷 朋子

賛助：滝沢 博 牛島 正隆

準会員オペラ公演 「魔 笛」 1997年2月26日(水)・27日(木)

台 本：E.シカネーダー／作  
指 揮：古谷 誠一 演

曲：W.A.モーツァルト

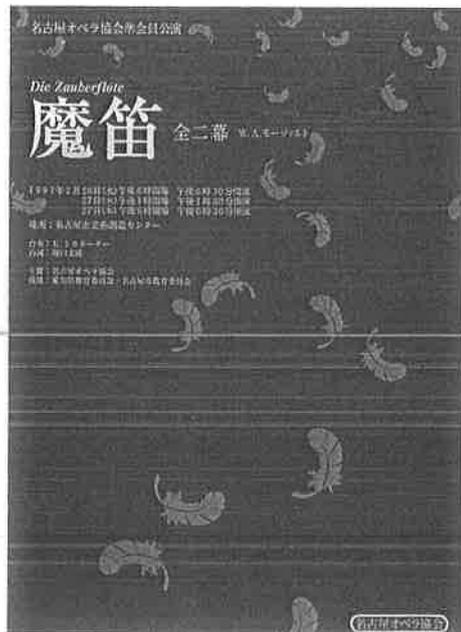
於：名古屋市芸術創造センター

出：堀口 文成 演 奏：ナゴヤシティ管弦楽団



キャスト

|               |                   |               |           |
|---------------|-------------------|---------------|-----------|
| ●26日P.M.6:30～ | ●27日P.M.6:30～     |               |           |
| ●27日P.M.1:30～ |                   |               |           |
| ザラストロ         | 川口 豊              | ●27日P.M.6:30～ | 安田 健(賛助)  |
| タミーノ          | 江端 智哉(賛助)         |               | 鍋木 勇樹(賛助) |
| 夜の女王          | 渡辺 まみ             |               | 黄池 貴子     |
| パミーナ          | 内田由美子             |               | 盛 かおる     |
| 第1の侍女         | 須藤 倫代             |               | 水谷 朋子     |
| 第2の侍女         | 青木なつ恵             |               | 吉田 友紀     |
| 第3の侍女         | 野村 弥生             |               | 水野妃佐子     |
| 第1の童子         | 松田 園子             |               | 岩附 章代     |
| 第2の童子         | 岩永 真美             |               | 宮川 佳子     |
| 第3の童子         | 杉浦 薫              |               | 伊藤嘉奈子     |
| パパゲーノ         | 滝沢 博(賛助)          |               | 森山 孝光(賛助) |
| パパゲーナ         | 近藤亜由美             |               | 鈴木 陽子     |
| モノスタトス        | 宮崎 智永(賛助)         |               | 宮崎 智永(賛助) |
| 武士            | 日高 義啓             |               | 日高 義啓     |
| 武士            | 山原 幸浩             |               | 山原 幸浩     |
| 弁者            | 澤脇 達晴             |               | 澤脇 達晴     |
| *黙役*          |                   |               |           |
| パミーナの父        | 牧野 英久             |               | 牧野 英久     |
| パミーナ          | 堀口 政子・長柄 千紗(子供時代) |               |           |
| 合唱            | 名古屋オペラ協会合唱団       |               |           |





●「魔笛」より



●「魔笛」より

### 第13期 研究生修了公演

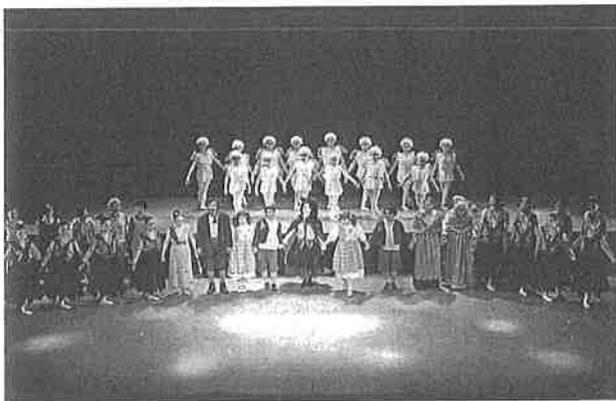
ヘンゼルとグレーテル 1997年3月27日(木)・28日(金) 於：名古屋市芸術創造センター

指揮：永友 博信 演出：太田 幸則



#### キャスト

|                         |                  |
|-------------------------|------------------|
| ヘンゼル……(1・2幕)久世美紀子(27日)  | お父さん……日高 義啓(27日) |
| 角田 純子(28日)              | 山原 幸浩(28日)       |
| (3幕) 村松 由理(27日)         | お母さん……吉田 弘子(両日)  |
| 川本 昭子(28日)              | 眠りの精……太田 恵子(27日) |
| グレーテル……(1・2幕)則武千代子(27日) | 加藤万紀子(28日)       |
| 東 えり(28日)               | 露の精……栗谷美香子(27日)  |
| (3幕) 近藤 由香(27日)         | 石田みどり(28日)       |
| 古田 直子(28日)              | 魔女……中村有希子(両日)    |



# 1997(平成9)年度

琵琶白菊物語 1997年11月7日(金)・8日(土)・9日(日)

名古屋オペラ協会  
名古屋市民芸術祭'97主催事業  
名古屋オペラ協会創立15周年記念公演  
日本芸術文化振興基金助成  
日本オペラシリーズ第15  
名古屋オペラ協会委嘱作品

## オペラ 琵琶白菊物語

脚本・演出 遠かな歌 遠かな里より

指揮 山島 博 演出 西川 好弥  
台本 森 治 監修 北川 研昇

|      |         |      |             |
|------|---------|------|-------------|
| 音楽家  | 名古屋交響楽団 | 指揮   | 名古屋オペラ協会合唱団 |
| 第一指揮 | 伊藤 三郎   | 第一指揮 | 田川 幸則       |
| 第二指揮 | 藤山 野    | 第二指揮 | 太吉 伊藤       |
| 第三指揮 | 上坂 治    | 第三指揮 | 藤川 真明       |
| 第四指揮 | 真田 実子   | 第四指揮 | 守野 八代       |

●キャスト●

|       |        |       |       |       |
|-------|--------|-------|-------|-------|
| 主演    | 子蘭代 仁晴 | 子蘭代 久 | 子蘭代 子 | 子蘭代 男 |
| 藤原 兼光 | 藤原 重隆  | 藤原 重隆 | 藤原 重隆 | 藤原 重隆 |
| 藤原 兼光 | 藤原 重隆  | 藤原 重隆 | 藤原 重隆 | 藤原 重隆 |
| 藤原 兼光 | 藤原 重隆  | 藤原 重隆 | 藤原 重隆 | 藤原 重隆 |

1997年11月7日(金) 午後6:30  
11月8日(土) 午後2:00・6:30  
11月9日(日) 午後2:00

会場 アートピアホール (名古屋市青少年文化センター)

主催 名古屋市民芸術祭実行委員会  
協賛 名古屋交響楽団  
名古屋市民芸術祭実行委員会  
名古屋オペラ協会

入席 7,000円 (指定席)  
前席 5,000円 (自由席)  
チケット チケットぴあ (☎052-320-9999)  
各プレイガイド  
お問い合わせ ☎052-851-2089 (名古屋オペラ協会)  
☎052-876-3860 (福田富子)



スタッフ

総監督……………福田富子  
 指揮……………川島博  
 演出……………西川好弥  
 美術……………伊藤三朗  
 照明……………銅山哲朗  
 音楽……………上野慶  
 衣裳……………坂治栄  
 メイク……………真津田美紗子  
 舞台監督……………太田幸則  
 振付……………西川好弥  
 副指揮……………吉川朗  
 演出助手……………野村八千代  
 舞白監督助手……………服部基子  
 ……やまけい  
 ……清水さおり  
 練習ピアノ……………伊藤真理  
 ……守光明子  
 ……(株)松ばら  
 衣裳小道具協力……………松竹衣裳株式会社  
 管弦楽……………名古屋楽友協会管弦楽団  
 合唱……………名古屋オペラ合唱団  
 制作助手……………野村八千代  
 ……米浜光代  
 制作……………名古屋オペラ協会

キャスト

七日夜・八日昼  
 槐……………藤本圭子  
 師長……………鍋木勇樹  
 小夜……………出田光代  
 清蔵……………櫻井重仁  
 忠良……………薄脇達晴  
 龍臣三宗勇男……………川口豊  
 平清盛・横江朝長……………堀嘉和  
 槐の母……………江崎裕子  
 遊女・綾・衆人……………須藤倫代  
 遊女・文・衆人……………近藤亜由美  
 白拍子・菊……………各務実峰  
 都よりの使者……………牧野英久  
 八日夜・九日昼  
 内田由美子  
 井原義則  
 千田恭子  
 笠井幹夫  
 小原恒久  
 安田健  
 神谷敏男  
 吉田弘子  
 竹内久恵  
 水野妃佐子  
 東えり  
 土屋雅人

キャスト

七日夜・八日昼  
 女の童楽人……………黄地貴子  
 ……吉田友紀  
 ……天野久美  
 八日夜・九日昼  
 長沼由江  
 鈴木智恵  
 青木なつ恵  
 旅人旅人……………やまけい  
 旅人子役……………山下佳織  
 龍臣兵士頭兵七村八部下  
 ……市川勇樹  
 ……西永望  
 ……望瀬武彦  
 桑野好典 鈴木 誠 志村俊人  
 女官女房村人コロス  
 ……宮川佳子  
 ……古田直子  
 ……水野佑枝子  
 ……近藤由香  
 ……村松由理  
 ……太田恵子  
 コロス……………東えり  
 ……各務実峰  
 ……加藤千香子  
 小林京子 後藤理子 鈴木紫子  
 高橋直美 長谷川 菊 三浦葉月





## 歴代の事務局長 礼賛!!

名古屋オペラ協会

(事務局長 平成2年度～5年度)

相談役 小林 満

初代の竹本さんが今、少し体調をくずしておられるので、その代わりに私が一筆啓上という次第です。竹本さんは協会創立当初からの事務局長で「自分がオペラ協会を守るんだ」という気迫を感じたものでした。そして委員長の横井さんをサポートして「副官」であることに徹しておられた様に思います。オペラ協会の屋台骨を築かれたお二人でした。

事務局が東別院青少年会館2Fから独立して大須に居を構えて半年後、竹本さんが退かれ、二代目として外部から契約付きで照喜名さんが入られた。経理のコンピュータ化が進みましたが、事務局管理の点で随分苦労された様でした。その甲斐あってやっと手にした「自分達の城」という自負を皆さん持っておられ、その頃はそれなりに充実感があったように思う。

それも束の間、突然委員長の横井さんが辞められ、暫定委員長川島さん、三代目事務局長が私というコンビが誕生した。大須の事務所も一年半位の期間で白川公園のチサン・マンションに移転することになった。オペラ協会としては大きな転換期であった。

時は平成2年、1990年のことである。川島さんが4月15日付けの「文部広報」を運営委員会で披露された。そこには「芸術文化振興基金の創設」の見出しで、1000億円の基金で30億円を運用するという構想の内容だった。私は事務局を預かるに当たり、オペラ協会の課題は、助成金の獲得である主旨の提案をした矢先だった。

将来に向けてオペラ活動を発展させる為には、今後「助成金」は不可欠の条件だと考え、私に課せられた最大の使命は「助成金を軌道に乗せること」だと自分自身に言い聞かせたものだった。その結果、平成2年度は『唐人お吉』に、3年度は三菱信託財団から『修禅寺物語』に、平成4年度も基金部から『春琴抄』にとそれぞれ助成金が付くようになった。勿論、『修禅寺物語』は名古屋市芸術祭主催、『春琴抄』は愛知県芸術文化振興事業団主催という幸運もあったが、兎に角何とか「助成金獲得」の道筋だけは付ける事が出来た。そこで経理にも詳しい川口さんに事務局長を譲り、委員長も福田さんに交替したのが平成6年、1994年のことである。事務所も青少年会館に戻ると直ぐ岡文ビルに賃貸で入り一人前の居を構えた。これで福田・川口体制が出来た訳である。本当の意味で事務所らしい事務所となったが、平成8年、1996年オペラ練習所「スタジオあい」に事務所も一緒に移転することにした。これは一重に伊藤惣介さんの理解と好意により実現したことである。

ここに本格的なオペラ団体としての体制が小さい乍ら整ったことになる。なお、現在の事務局長は五代目に引き継がれている。

---

## 15周年を迎えて思うこと

---

名古屋オペラ協会

育成部長 伊藤晶子

---



旗揚げ公演『夕鶴』をスタートに、名古屋オペラ協会は、「日本の創作オペラ」をメインとして、「日本人のつくった日本のオペラを…」と、この15年間ひたすら走りつづけてまいりました。ふりかえてみますと、大変苦しい時も度々ありましたが、名古屋オペラ協会全員の方で、この「名古屋の文化」に大きな存在感を示してきたのではないかと思います。私自身も『夕鶴』の「つう」役から数多くの主役をさせていただきましたが、このオペラ協会に育てていただいた感謝の気持ちを、これからオペラ歌手になっていく後輩達に、伝えていかななくてはと思っております。

ます。

名古屋オペラ協会の育成部は、15年前に、現委員長福田先生からスタートされ、10年前より私が担当してまいりました。研究生は、会員、準会員とともに、この協会の中で、重要な役割をはたしてまいりました。全ての公演に参加し、裏からも表からも、協力してきましたが、2年間のクラス授業とともにこの大きな舞台から得られる経験は、研究生の大きな力となって、次の名古屋オペラ協会を支えていってくれることでしょう。

育成部の充実こそ、これからの協会の発展につながるものと、責任重大な立場に、身をひきしめている今日このごろでございます。昨年14年目にしてやっと念願かなって、「オフィスと練習場」が出来ました。

大きな荷物をかかえて、あちこち走りまわって練習をした我々の時代とちがって、夢のような思いをしております。

これからのオペラ協会の発展に、この「スタジオあい」が、大いに役立ってくれますことをオーナーとともに祈りつつ、一人ひとりが、この「スタジオあい」を大切にしていきたいと願っております。

---

## 名古屋オペラ協会15周年に寄せて

---

名古屋オペラ協会

運営委員 川 島 博

---



昭和何年の頃だったでしょうか。横井先生から、オペラをやらないかということで始まった会議は、確か横井先生、竹本先生、大賀先生、小林秀雄先生、津田先生、神田詩朗先生それに私の計7名であったと思います。従って、15年の歳月は最初のメンバーを僅か2名にしてしまったこととなります。約1年間の準備期間を経て、『夕鶴』を私が指揮することになり、何とか日本のオペラの公演を目指すオペラ団体としての成果を得ることが出来ました。或る新聞ではその年のコンサートの中で1位に挙げられました。しかしその後、日本のオペラばかりの公演の連続は、経済的にも内容的にも苦しく、会員の方々の不満が増えて行ったような時期がありました。私の委員長時代はヨーロッパのオペラへ揺れた時ではなかったでしょうか。私も訳語の研究をやらなければとの思いでそのような研究会の発足を考えましたが、丁度字幕スーパーの登場の時期に重なり、余り盛り上がりませんでした。でも今でも私はヨーロッパのオペラの言葉の分かる日本語による公演を行うことも、このオペラ協会に与えられた1つの使命でもあると考えております。1990年代に入ると、それまでのオペラのあり方と様相が一変してまいりました。いろいろな助成金が付く様になり、芸術劇場大ホールも完成され、豪華絢爛たる舞台も造れる様になったからです。『春琴抄』はその最も良い時期に公演されました。いつしか日本のオペラの公演も定着していったようにも思えます。15周年にあたり、考えもしなかったオペラを作曲することになり、コンピュータという強い味方を得て、2時間にも及ぶオペラを作曲することが出来ました。15年という長い間、日本のオペラを見聞きしたり、指揮したりしてきたこと、身近に舞台監督や演出家に接しられるようになっていくこと等が大いに助けになっていると思います。名古屋オペラ協会の記念すべき第1回公演の指揮と、15周年記念の自作のオペラの指揮という幸運に感謝しております。

## 旗揚げ公演の思い出

名古屋オペラ協会

運営委員 中島基晴



昨日起きたことも忘れてしまう今日この頃15年も前のことを思い出して一筆書いてほしいと、言われても「これは困った何を書いたら良いか」と思案に暮れました。

名古屋オペラ協会が設立されその旗揚げ公演の演目が『夕鶴』と決まった。

「おい、中島君や君“与ひょう”の役でオーディションを受けてみんなか」と誘ったのは小生より1年早く東京から名古屋に勤めに来ていた“のんべー”の津田先生であった。

マリオ デル モナコに憧れイタリアの声を心から愛しちゃってイタリアオペラの二枚目の役ばかりを歌って来た小生にとっては、まったく考えられない大変なことだった。

「与ひょう」と言う役をやるということは今までの二枚目のイメージを捨てなくてはいけない。オーディションの当日は緊張することなく会場に入った。

何人かのお偉い方々がホール2階の前列に席を構えこちらを観ておる。わたしの二枚目の姿に圧倒されているのだろう。と言う小生実は『夕鶴』の楽譜をまだと言うより殆どと言った方が良いほど見ていない状態であった。

津田先生いわく「ちょっとだけどんな声が、聞かせてもらえば良いんだよ。」

この言葉を信じた小生が馬鹿であった。

「与ひょう」の役でオーディションを受けたのは2人であった。もう一人のその方は背が高く、美男子で、若くて、水も滴る良い男、それを見て“納得”「与ひょう」は二枚目がやるんだ、と。

(本番では鼻の頭を真っ赤に塗られた与太郎すがたにされるとは)惨め☆☆

殆ど歌えない小生とは違いもう一人の方はオペラの中のアリアを殆ど暗譜で歌っておった。オーディションとはこう有るべきだと反省。

小生の相手役の「つう」は名は書かないが見るからに声楽家と思える体つきの人であった。顔はとっても可愛らしい人であったが、自分が描いておった(つうとは鶴のごとく)……であろうと期待しておったのだが世の中そう甘くはない(まあ舞台では細く見えるか)と自分に言い聞かせ少しでも立派な舞台にしようと皆で頑張りました。

演出の先生には「相撲を取っているんじゃないよ」と、言われ、演技中にぶつかるお互いの腹には今想像しても笑えてくる。 まあ色々あったがこうして旗揚げ公演は大成功のうちに終わった。



## 名古屋オペラ協会と私

名古屋オペラ協会  
運営委員 永友博信

工業大学から一転して音楽の道を選んだ私は、芸術大学修了後、すぐに名古屋オペラ協会に所属しました。そして旗揚げ公演の『夕鶴』に「運づ」役として出演したことから、声楽家としての活動が始まったのです。

それから15年、さまざまな出来事やいろいろな人との出会いが、実に多くの財産をもたらしてくれました。なかでも、第1回公演『夕鶴』、第3回公演『修禅寺物語』、そして第13回公演『海の子守唄』の3公演は、いずれも私にとって大きな意味を持つものでした。

『夕鶴』の練習中、演出家の小田健也先生から「形で演技するのではなく、心で演技する」ことを学びました。あれこれ手足を動かして表現するよりも、その心を感じとることこそ、自然で強烈な表現となる場合が多い——これが、その後の私の演奏、演技、指導の原点となっていったように思います。

そしてそれを更に充実させたのが、第3回公演『修禅寺物語』でした。演出補佐であった板東梢先生から学んだ「様式美」「型」というものの魅力が、私が日本のオペラに惹かれる最大の理由であるといっても過言ではないでしょう。子どもの頃から田舎の映画館で市川歌衛門や中村錦之助（故・萬屋錦之助）の出演する時代劇を必死に見ていたことが影響を及ぼしているのか、或いは日本人の血がそうさせるのかは分かりませんが…。とにかくこのような時代物の作品に強く興味を覚えていた私にとって、オペラ協会が取り組んできた日本オペラは何れも魅力溢れる作品で、歌い手としてばかりでなく、役者としてもやり甲斐のあるものでした。

またこの『修禅寺物語』に於いて星出豊先生という理想的なオペラ指揮者に出会ってからは、それまで抱いていたもう一つの夢を膨らませることになりました。星出先生の気迫に満ちた指導、もともと歌い手であった指揮者ならではの説得力、どんなに厳しくても、その瞳の中に溢れる愛情——その全てに魅せられ、既に歌い手と指揮者との二足のわらじを履いて音楽活動をしていた私は、以後、オペラを振れる指揮者になりたいという夢を抱きつつ、次第に指揮者としての活動に重点を置くようになりました。

その後、オーケストラ付きの合唱作品を多く指揮することになり、オペラ協会に於いても、研究生の修了公演の指揮などに携わるようになりました。本公演で『海の子守唄』を指揮する機会が与えられたのはその後まもなくのことでした。少ない予算のために楽器の編成を減らさなくてはならなかったこと、手書きのスコアはミスが多く、音符の配置も不揃いで非常に見にくかったこと、いざ練習を始めてみると、学生の管楽器奏者がボロボロ落ちこちてしまった等々、悪条件でのスタートでした。しかし、多くの人たちに支えられ、何とか責任を果たすことが出来ました。その中でも、敬愛する星出先生が「永友が指揮するなら力を貸す」と言って下さり、数回の御指導と、御自分の本番前のリハーサルを1日削って『海の子守唄』の初日にゲネプロから付き合って下さったことは、言葉では言い表せないほどの大きな励みになりました。実際の練習に於ける指導は勿論、お酒を飲みながらのリラックスした中での音楽談義も、全てが学びの場でありました。先生の大きな力に導かれて、私はオペラ指揮者としての第一歩を僅かながら踏み出すことが出来たと思っています。

名古屋オペラ協会が創立15周年を迎えるに当たり、設立から今日まで協会の発展に寄与された横井園生先生、竹本正俊先生をはじめ運営委員の先生方に敬意を表するとともに、私自身、今後の発展に少しでも貢献出来ることを願って止みません。

---

## 15周年を祝し

---

名古屋オペラ協会

運営委員 小原 恒久

---



私がオペラ協会に初めて参加させていただいたのは第2回公演、「赤い陣羽織」の時です。本格的なオペラは初体験でしたので非常に緊張し、かつとても恥ずかしかった(赤フンでステージに立った)のを覚えています。そこでオペラを創り上げる楽しさに目覚めたのだと思います。その後、星出豊先生の指揮で度々歌う機会を与えられ、音楽を通しての言葉の表現がいかにもむずかしいかを思い知らされ、やっと最近、歌う事のおもしろさがわかってきた気がします。私のような者でも芸文大ホールで主役をさせていただきました。しかし東京にいたら良くてコーラスのソロ位しかさせてもらえないでしょう。

しかし15周年をむかえたオペラ協会も出演しているメンバーを見ると昔とあまり変わっていないという気がします。どんどん若手が出てきて、私など肩タタキされてもいい頃だと思います。

名古屋の現状を見ても歌い手の代替りはあまり進んでいないように見えます。これはやはり演奏活動を続けていく上での経済的な問題がかなり影響していると思います。せっかく名古屋には立派なホールがたくさんあるのですから若手にはがんばってもらわねばと思うのと同時に、今の体制のままではなかなかむずかしい面も多いと感じています。

名古屋オペラ協会を今後発展させていくために今、私達は何をするべきか、何ができるかを一人ひとりが良く考える時だと思います。

先日、新国立劇場の柿落としを見させていただきました。あの舞台が名古屋でやれたら何と素晴らしい事でしょう。又、名古屋制作のオペラがあの舞台に乗せられ、そこで名古屋オペラ協会のメンバーが歌えたらと夢を大きくふくらませました。名古屋で演奏活動を続ける事のメリットを最大限生かし、若手の人は精一杯がんばってほしいと思います。

# オペラ「夕鶴」以来15年

名古屋オペラ協会

(事務局長 平成6年度～8年度)

会 員 川 口 豊



あのオペラ『夕鶴』を公演したのが今から15年前とは信じられない気持ちです。日本語の歌い方を考え、日本語のオペラを続けて上演するという崇高な理想を掲げて、活動を始めた名古屋オペラ協会が15年も年を重ねたのかと思うと胸がいっぱいになります。正直、現在のメンバーの涙ぐましい努力があったればこそですが、こうしたいわば特殊なしかし非常に重要なテーマを掲げてオペラ活動を続けることがどこまで可能なことか疑問がないわけではありませんでした。あの旗揚げ公演の時、目的意識とでもいうものが一気に高められたようなつもりでいます。その

時に蓄積したエネルギーで今も走り続けているような気がしております。たぶんこれからもずっと走り続けることができると考えています。

このオペラ『夕鶴』では、悪の塊のような役である「惣ど」を設立当初のオペラ協会の中で最も若い世代に属する私が演じ、可憐な「つう」の役を伊藤晶子先生、すこしぬけた「与ひょう」の役を中島基晴先生といずれもオペラ協会の大幹部が相手でした。今ならもう少し「惣ど」らしくすることができると思いますが、あの時は若いからとつうと「与ひょう」にいたわられながら、うそもつくことのできなさそうな「惣ど」をそれなりにうまくやったつもりでいました。思い出すと本当に懐かしくなります。

こうして15年たってまわりを見まわして、ひとつのオペラの中で自分は出演者の中で最高齢者の層を形成していることに気がつき、啞然とします。まだまだ最初に蓄積した若いエネルギーを持ち続けているつもりなのに、かつて自分が見られていたような目で若い人を見ている自分に気がつくことがあります。

15年という時の流れは、実に速かったです。しかし、公演を積み重ねてきたという実績は確実に残ってきました。そしてこの間に教えを受けた多くの先生方、そしていっしょに公演をしてきた仲間たち、公演を支えてくれた多くのスタッフたち、たくさんの人たちに対して感謝の気持ちでいっぱいです。この15年で得たものは私にとって実に貴重なものであり、何物にも代えることができないものです。

名古屋オペラ協会がこれからもますます発展することを願ってやみません。

---

## 名古屋オペラ協会創立15周年に寄せて

---

名古屋オペラ協会

会 員 松 波 千 津 子

---



15周年お慶び申し上げます。

オペラ協会とのおつきあいは、初公演のオペラ『夕鶴』に始まります。それは、見事な演出と会員の熱意に溢れ、観る者を引き込む、素晴らしい舞台であったことが、今も鮮かに思い出します。何よりもこの公演で、オペラ協会が、名古屋で唯一、本格的なオペラに取り組む力量を備えた組織であることを確信しました。

その後、コンクール入賞後、チャンスに恵まれ、85年『修禅寺物語』の「かつら」役に抜擢されて以来、95年『袈裟と盛遠』の「袈裟」役に至るまで、10回のオペラ公演に参加させて頂きました。初めて主役を努めた『修禅寺物語』は、大変緊張し、熱を出した舞台でしたし、その後の星出・粟国両先生のご指導を受けた『祝い歌が流れる夜に』や、初めてのプリマオペラであった『唐人お吉』、創立10周年記念の『春琴抄』をはじめ、どの公演も、それぞれに記憶に残っております。

オペラ協会から、本当に多くのことを学ばせて頂いております。日本語の美しい発音や発声法、和装での所作といった技術的な面はもちろんですが、それ以上に私にとって有益であるのは、多くの一流の指揮者、演出家の先生や、仲間と出会い、豊かな人間関係のなかで素晴らしい舞台を創り上げてきたことです。それは今日の私にとって大きな財産であると共に、オペラ協会が持つ魅力の一つではないでしょうか。これも会長をはじめ、協会の運営に携わる役員の方々の御努力の賜物であると思います。本当にご指導ありがとうございます。

私の声楽家としての今日に至るまでの歩みは、協会と共にあります。今後も、皆様から多くのことばを学ばせて頂くと共に、これからも微力ながら協会のお役に立ちたいと考えております。

今後の一層の発展を祈念致します。

---

# 名古屋オペラ協会創立15周年に寄せて

---

名古屋オペラ協会

会 員 土 佐 誠

---



「名古屋オペラ協会」、この、日本オペラの振興に意欲的に取り組む団体は、僕の四半世紀に渡る声楽家人生を語る上で、欠く事の出来ない存在であるといえます。紙面の都合上詳述は避けませんが、伊藤晶子先生の要請で軽い気持で入会したのですが、その後の十余年間に受けた多大な影響を思うと、そのちょっとした「きっかけ」に、ある種の感慨を感じるのを禁じ得ません。大学院を出て直ぐに入会した二期会では、所謂「洋ものオペラ」の日本語上演に、そのメリットは認めつつも何かしらの違和感を覚え、日本語でのオペラ演奏に興味を持てなくなっていました。又その頃自分の声種に疑問を感じ、リート中心のバリトンからテノールへの転向を目指してベル・カントを研究する為に、二期会を辞めてイタリア語での響き造りに熱中していた時期でしたので、入会はしたものの、日本オペラへの出演は考えてなかったのです。しかし、日本オペラの上演に限りない情熱を持たれる横井先生の人間性に動かされて出演した『祝い歌』での、星出先生の「日本オペラもベルカントで歌う」との発言と、その通りの素晴らしい指導が僕の日本オペラ観を大きく変え、その後『黄金の国』、『春琴抄』等で主要な役を演じさせて戴くことで多くの貴重な勉強をさせて頂きました。特に『春琴抄』での佐助役は、谷崎文学の体感と共に、日本オペラに関しては日本人が最高の演者になれる可能性を実感できた貴重な役でした。創立以来、運営等にご苦労された諸先生方、及び、会員、準会員、研究生等の皆さんの努力の賜物である15周年ですが、この15年で培って来た名古屋オペラ協会の存在意義は大変に大きなものであると確信しています。今後の益々の発展を願うと共に、それに微力ながらも寄与することが出来ればと、心秘かに思っております。

---

# 名古屋オペラ協会創立15周年に寄せて

---

名古屋オペラ協会第2期研究生修了  
準会員 水野 佑扶子

---

あの第一回公演『夕鶴』を観てから、もう15年もたったのですね。ほんとうにおめでとうござい  
ます。研究生も15期生までになり、若い人達がどんどん入って来るのを見ると、「我々もがんばら  
ねば」と思います。

私たち2期生の時には、1年目に『セロ弾きのゴーシュ』、2年目に『ディドとエネアス』と、  
2回もオペラをやらせて頂けてとても幸運でした。元気だけはよくて先生方にもずいぶん反発し、  
色々ご迷惑もおかけしました。もう、協会に残っているのは2人ほどになってしまいましたが、本  
当に楽しい2年間でした。また、あの時勉強したことは今の私の土台となっていることを折りに触  
れ感じます。

さて、オペラ協会も『夕鶴』を一番底辺として、15年間積み重なった土台が出来ているはずで  
す。でもそれが果たして強固なものであるのでしょうか。一回一回の公演の反省が、次の公演で生かさ  
れているのでしょうか。前回のその上に改善された経験を重ねなければ、只々回数をやっているだ  
けのことになってしまいます。15周年というのは節目であり、祝うべきことでもあると思いますが、  
また、これからの事を改めて考える時であってほしいと切に思います。15年間の積み重ねというも  
のを生かせる体制づくりをしていけることを祈ります。50周年、100周年まで、オペラ協会がすば  
らしいオペラを創っていくためにも…。

名古屋オペラ協会

準会員 水野 妃佐子

---

大学を卒業してから5年間、小学校講師として勤めていました。教員という仕事はとても魅力的  
な仕事で、それなりに充実していましたが、どうしても「歌を歌っていきたい。」という夢が捨て  
られず、講師を辞めることに決めました。

一年間個人的にレッスンにかよひ、オペラ協会準会員のオーディションを受け、幸運にも準会員  
合格と同時に、オペラ『海の子守唄』の“中年の女”役をいただくことができました。

私は、今までオペラをやったことがなく、役づくり、動き方、浴衣の着付け等、基本的なことも  
何も知らず、わからないことばかりでした。共演者の方々に、かなり迷惑をかけたことと思います。  
かなりのストレスに、体調をひどくくずしました。

しかし、共演者の方々からアドバイスをいただき、それを自分なりに消化していくことで乗り越

え、無事公演を終えることができました。

この時受けたアドバイスが、私にとって大変プラスとなり、以後いろんな舞台をしていく上で役に立っています。

その他にも『メリーウィドー』の踊り子役に選ばれ、ダンスの勉強をさせていただいたり、モーツァルトの『魔笛』では、アンサンブルの勉強をさせていただきました。

どれも、個人では勉強できないことばかりです。

いろんな指揮者、演出家、作曲家、共演者の方々と作品をつくり上げていく中で得られることが多く「これからも、勉強し続けていこう」という気持ちにさせられる毎日です。

車で往復3時間かけて練習場に行き、練習するのは大変ですが、できる限り続けて頑張ろうと思います。

これからも、よろしくお願い致します。

## 名古屋オペラ協会第13期研究生修了 準会員 近藤由香

---

名古屋オペラ協会創立15周年、まことにおめでとうございます。

私たち13期研究生は2年間の研究成果の集大成として、修了公演は『ヘンゼルとグレーテル』を上演しました。

特に2年目は、指揮者・演出家の指導依頼に始まり、舞台監督・制作の依頼、副指揮者・練習ピアノ伴奏者の協力依頼、選考会による研究生全員の配役決め、衣装、会計、小道具、プログラム作成上演当日迄の準備等は未経験のことばかりでした。また、13期は年齢層も幅広く、職業も様々であり、このことが相互協力に弾みをつけ、さらに全員の連帯感を強めることができたと思います。

そして、練習終了後は夜遅く迄必ず話し合いを行い、最高の調子で修了公演を無事に済ませることができました。

この成果を温かく見守って下さいました名古屋オペラ協会の関係者の皆様方にはご支援助力をいただき誠に有り難うございました。また、我々の音楽稽古を影で支えてくれた「スタジオ あい」の存在はとても有意義であり、その場を開放してくださいました伊藤惣介先生には心より御礼申し上げます。

研究生を修了した16名は、それぞれの道に進み、準会員に進級する者、大学院に進学する者、今年1年はオペラに出演する者と音楽を通じた活動に精励しています。また、全員で「Brillante Voce」を発会させ、月に1回集合し、近況報告・課題の設定等今後の目標を決めて自己研鑽しています。さらに一つでも多く舞台に出演できるよう、また一人でも多く公演に出演できるよう、常に目標を上におきこれからも活動を継続し、名古屋オペラ協会がさらに発展するよう努力精進いたします。

目標 20周年記念に向けて

さあ、頑張ろう!!

名古屋オペラ協会第14期研究生  
平成8年度 中 沢 美 紀

---

私たち14期生が名古屋オペラ協会研究生になった年は、練習場「スタジオあい」が出来た年でもあります。音楽を演奏する上で練習空間は、特にオペラに関してはとても重要視されると思いますので、今まで苦勞して練習場所を確保してみえた先輩方に比べると、私たちはとても恵まれた環境で勉強を始めることができたと思います。

私たちのように演奏家を志す者にとって、勉強する上で頼りとなるものは多くの場合、楽譜・CD・LD・残された資料のみとなり、なかなか作曲者自身の考え、思い入れが理解不十分な点が多いのですが、幸いにも研究生の授業の中で一年目は石井敏先生、2年目は小林秀雄先生をお迎えして公開レッスンを受けることができました。特に2年目の小林先生のレッスンでは、14期生がモデルとなったため、先生直々のピアノ伴奏で歌ったり、楽譜を読む上での留意点、曲に対するエピソード等歌曲の数々と、とても新鮮な気持ちで向きあうことができました。

これからも私たち研究生は、音楽の中でも特にオペラという分野に対して、表舞台・裏舞台共に学ばなければならないことが数多くあります。週一度の授業ですが、常に刺激を求め、皆で助けあってこれからも進んでいけると良いと思います。

最後になりましたが、今後ますます名古屋オペラ協会が発展、ご活躍されることを願い、又私たちもそれを支える一員となれるよう日々努力していきたいと考えております。

名古屋オペラ協会第15期研究生  
平成9年度 長谷川 菊

---

5月に第15期研究生として開講式を迎えてから4ヶ月が過ぎました。まだ色々ともどったり驚いたりする事もありますが、勉強が出来る事に関しては学生時代以上にうれしい毎日です。

一生のうちで一番勉強出来るのは学生の時だけだと思っていた大学時代は、卒業してから勉強を続けていく事が難しくなるのではないかという様な不安でいっぱいでした。が、実際卒業した今、協会の研究生となり学生の頃とはまた違った充実感と手ごたえを感じています。

週一回の講義の他にも、先日の様な演奏会や(セントラル愛知“たびだちのコンサート”)11月の、『琵琶白菊物語』等々、舞台に立つ機会も与えていただき、今、学生時代には無かった“実践出来る喜び”をかみしめています。

まだまだ駆け出しの私にはこの15年間で、諸先生方にとって長かったのか短かったのかさえ想像もつきませんが、ただ分かる事はこの15年間を築き上げて来られた先生方のお陰で、今こうして私達が勉強させていただく事が出来るのだ…という事です。

それから、さらに15年・20年オペラ協会の未来は私達も一緒に築き上げていくのだとも思います。

名古屋オペラ協会、この15周年を節目にさらなる発展を願って…。

# 名古屋オペラ協会

顧問 伊藤京子  
森一也  
原 陟

相談役 小林秀雄  
大賀寛  
横井園生  
竹本正俊  
小林満生  
横井園生  
竹本正俊  
岩田光義  
古島実春  
堀部憲夫  
照喜名一男  
神田詩朗  
金子武志

運営委員  
委員長 福田富子  
副委員長 伊藤晶子  
川島博晴  
中島基博  
永友博信  
長柄孝彦  
小原恒久

歌手育成部  
育成部長 伊藤晶子  
研究生担当 永友博信

事務局  
事務局長 長谷川雅彦  
事務局長補佐 千田恭子

特別講師  
声楽 大賀寛  
演出 小田健也  
作曲 小林秀雄  
指揮 星出豊  
日舞 坂東梢  
指揮 古谷誠一

講師  
演出 木崎裕次  
演出 太田幸則  
バレエ 塩田知子  
日舞 西川好弥  
メイク 真津田美紗子  
声楽 津田孝雄

会員  
出田光代  
内田由美子  
大西小夜子  
大野賀久子  
栗田啓子  
五島由美子  
近藤真理子  
千田恭子  
竹内久恵子  
藤本圭子  
堀ノ内宏子

松波千津子  
水谷朋子  
盛 かおる  
渡辺まみ  
江崎裕子  
中須賀悦子  
荒井嗣雄  
鏑木勇樹  
土佐誠  
野村富昭  
牛島正隆  
川口豊  
澤脇達晴

準会員  
青木なつ恵  
青山元子  
青浅田智子  
東 えり  
石井弓子  
石川あずさ  
石栗須代  
前川みど里  
出石敦子  
伊藤嘉奈子  
伊藤智美  
伊藤美佳子  
伊藤みき  
伊藤美紀  
稲垣善恵  
岩附章代  
岩永真美

江崎益子  
 黄池貴子  
 太田恵子  
 大塚多佳子  
 大沼予嗣枝  
 大橋智絵  
 加賀恵子  
 加藤佳子  
 加藤紀世美  
 加藤万紀子  
 川村玲子  
 鎌仲裕美子  
 川本昭子  
 神野英世子  
 河合玲子  
 川崎裕子  
 金原万里  
 久世美紀子  
 小泉洋子  
 後藤美保子  
 小林ふきえ  
 近藤亜由美  
 近藤由香子  
 酒井浩裕子  
 坂本藤まゆみ  
 佐島津恵子  
 杉浦薫子  
 杉浦恵子  
 杉山祐子  
 鈴木泉  
 鈴木智恵子  
 須藤倫代

巢之内 ますみ  
 鷺見美保子  
 角田純子  
 遠山直里  
 中野稚子  
 長沼由江  
 野村弥生  
 則武千代子  
 美口啓子  
 平岩雅子  
 渊田裕美子  
 古田直子  
 正村直子  
 松澤恵美子  
 松田園子  
 松葉千江美  
 水野香織  
 水野佑扶子  
 宮川佳子  
 村瀬淳子  
 村松由理子  
 山崎聖子  
 吉川友吏江  
 吉田幸恵子  
 吉田友紀子  
 中村恭子  
 中村有希子  
 早川明子  
 水野妃佐子  
 吉田弘子  
 日高義啓子  
 牧野英久

第十四期研究生

天野久美  
 安藤和美  
 各務実峰  
 後藤理子  
 佐藤恵美子  
 鈴木素子  
 曾根和美  
 高橋直美  
 田川由香子  
 中沢美紀  
 広田昌代  
 藤本理恵子  
 古井美恵子  
 三浦葉月  
 安田直美

第十五期研究生

安藤のぞみ  
 加藤千香子  
 小林京子  
 沢田なつ代  
 田島葉子  
 中尾佳世  
 長谷川菊子  
 半田佳子  
 広瀬優子  
 水野賀菜  
 目崎かおり  
 山本美和

ピアニスト一覧

丹羽悦子  
 富田初枝

大橋三桂子  
 大井真葉  
 渡部真理子  
 清水敦子  
 本多要子  
 甚目裕夫  
 谷口ひさえ  
 徳丸美里  
 神野薫子  
 本多由美子  
 近藤鶴代子  
 林家邦子  
 新家麻利子  
 三宅順子  
 山田礼子  
 伊藤藤眞理  
 鈴木真由美  
 笹島玉緒  
 堀江尚子  
 山本孝子  
 久野明子  
 山本晶子  
 早瀬洋子  
 山口知子  
 山口雅子  
 大橋絵理恵  
 竹内直子  
 若松美穂  
 近藤藤香世  
 伊藤藤典子  
 篠田純子  
 角田理絵子  
 出光明子  
 守近藤晃世

## 編 集 後 記

オペラ「琵琶白菊物語」の里“井戸田”は名古屋オペラ協会の拠点スタジオ「あい」の南へ約100mくらいの所にあります。そこの井戸田小学校に先日お邪魔し、井戸田小学校開校50年記念誌を頂いてまいりましたが、学区の史跡ということで、師長公愛用の「白菊の琵琶」や龍泉寺、藤原師長の家の跡があったといわれる嶋川稲荷等の写真がありました。

スタジオ「あい」でのオペラ制作は、まさに「琵琶白菊物語」の里でオペラ造りに励んでいると思う今日この頃です。

さて、名古屋オペラ協会15周年記念誌を作成するように命じられ、第1回の記念誌委員会を5月18日(日)に持ちました。その時委員会は私の他は8名で構成したのですがその後、日高君が入られ、爾来各委員の弛まぬ努力の結果このような記念誌を作成する事ができました。特に私がオペラ「琵琶白菊物語」の作成や演奏に追われてしまっただけから、日高君を中心にまとまって下さり、15周年記念パーティーに間に合うよう作成して下さいました。15年というと長いような短いような月日ですが、名古屋オペラ協会日本オペラシリーズ第1回公演「夕鶴」に始まり、第15回公演「琵琶白菊物語」まで欠かすことなく築き上げた貴重な企画・公認記録は汗と涙と感動の結晶であり、こうして記念誌に残すことで改めてその思いを再確認する事ができました。少しですが、資料(写真・プログラム・チラシ等)の残されていない行事もあり、研究生の修了式の写真等も残す必要を感じたり、15周年を機に記念誌を作成した意義を感じております。

名古屋オペラ協会15周年記念誌作成にあたり、文をお寄せいただいた方々に感謝いたします。又、資料を提供していただいた方々やお手伝いをして下さった方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。

名古屋オペラ協会15周年記念誌作成委員会委員長

川 島 博



# 名古屋オペラ協会規定

(名 称)

第 1 条 本団体を、名古屋オペラ協会と称する。

(事 務 局)

第 2 条 当協会の事務局を、名古屋市瑞穂区瑞穂通り 5-16 スタジオあい名古屋オペラ協会事務局 に置く。

(目 的)

第 3 条 当協会は、日本オペラを主体とする音楽芸術の普及、向上をはかり、芸術文化の発展に寄与するとともに青少年の音楽に対する積極的理解を深め、豊かな情操を養うことを目的とする。そのために、

- (1) 当地方に於ける日本オペラの振興を図る。
- (2) オペラに関する知識、技術を習得し、進んで当地方の芸術界の発展に貢献せんとする人物を養成する。
- (3) 青少年の音楽に対する積極的理解を深め、豊かな情操を養う。

(事 業)

第 4 条 当協会は、その目的を達成するために、次に事業を行う。

- (1) 日本オペラ協会を主体とする公演。
- (2) 定期公演、室内オペラ、修了公演、試演会、其の他の公演。
- (3) オペラ歌手、スタッフの養成。
- (4) 研究会、講習会の開催。
- (5) 青少年を対象とする公演、演奏会の開催
- (6) オペラ台本の委嘱、製作
- (7) 合唱団の養成。
- (8) 機関紙の発行。
- (9) 其の他当協会の目的を達成するために必要な事業。

2. 事業年度はその年の 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日迄とする。

(役 員)

第 5 条 当協会に、次の役員を置く。

- (1) 顧 問 若干名
- (2) 相 談 役 若干名
- (3) 監 事 若干名
- (4) 評 議 員 若干名
- (5) 運営委員長 1 名
- (6) 運営副委員長 2 名
- (7) 運営委員 若干名
- (8) 事務局長 1 名

(評議委員会)

第 6 条 評議委員会は委員若干名を以て構成する。

(運営委員会)

第 7 条 運営委員会は、委員長、副委員長及び運営委員を以て構成する。

(事務局)

第 8 条 事務局には、局長のもとに、庶務、会計、渉外、広報の各係を置く。ただし、事情によつては、各係の兼任もあり得る。

2. 各係の任務分担は次の通りとする。

- (1) 庶 務 庶務関係事項全般
- (2) 会 計 会計関係事項全般
- (3) 渉 外 外部との交渉事項全般
- (4) 広 報 宣伝に関する事項全般

3. 経理については、運営委員会の要請に応じて、随時報告しなければならない。

4. 各係は事務局長が推薦し、運営委員会の了承を得るものとする。

(会員・準会員)

第 9 条 当協会に、会員、準会員を置く。

(研究生・聴講生・会友)

第 10 条 当協会に、研究生、聴講生、及び会友の制度を設ける。

(賛助会員)

第 11 条 当協会に、賛助会員の制度を設ける。

(公 演)

第 12 条 公演は次の通りとする。

- (1) 定期公演 年 1 回を原則とする。
- (2) 臨時公演 必要に応じて開催する。
- (3) 修了公演 研究生の修了時に開催する。
- (4) 試 演 会 研究生の必要に応じて開催する。
- (5) 其 の 他 必要に応じて開催する。

附 則 本規定は昭和57年11月12日より施行する。

附 則 本規定は昭和62年 4月 1日より施行する。

附 則 本規定は平成元年 4月 1日より施行する。

附 則 本規定は平成 6年 4月 1日より施行する。

# 名古屋オペラ協会規程施行細則

## 1. 役員

(1) 役員の仕事は、次の通りとする。

- イ. 顧問 本協会に対する指導、助言を行い、その発展に寄与する。
- ロ. 相談役 本協会に対する助言を行い、その発展に寄与する。相談役は必要に応じて運営委員会の定める役職につくことができる。
- ハ. 監事 事業を監督し、指導、助言を行う。
- ニ. 評議員 評議員は会の重要なことについて相談を受け会の発展に貢献し、正・副委員長、運営委員、事務局を委嘱する。
- ホ. 委員長 本協会を代表し、これを統轄する。
- ヘ. 副委員長 委員長を補佐し、委員長ことある時に代行する。
- ト. 運営委員 本協会の中核として、その運営に参画し、会員、準会員、研究生等の指導にあたる。
- チ. 事務局長 本協会の事務局を統轄する。

(2) 役員の任期と選出及び改選の時期、方法は次の通りとする。

- イ. 顧問、相談役、監事、評議員の任期は特に定めなく、選出は運営委員会の推薦による。
- ロ. 正・副委員長、運営委員、事務局長の任期は2年とし、再選を妨げない。  
(4月1日より翌年の3月31日まで)
- ハ. 正・副委員長、運営委員、事務局長の選出方法は次の通りとする。
  - (イ) 委員長 運営委員の内より1名を互選により選出する。(任期満了の3ヶ月前)
  - (ロ) 副委員長 運営委員の内より2名を委員長の指名により選出する。  
(任期満了の3ヶ月前)
  - (ハ) 運営委員 新しく選出された委員長、副委員長が新運営委員を選出しその任務分掌を決定する。  
(任期満了の1ヶ月前)
- (ニ) 事務局長 新しく選出された委員長の指名による。(任期満了の1ヶ月前)
- (ホ) 正・副委員長、運営委員、事務局長は評議員会会員の依頼を経て後、次期役員となり4月より業務を行う。
- (ヘ) 尚、欠員が生じた場合、又は運営委員会で必要と認めた場合には、評議員会にはかり、これを補充する。

(3) 委員長、副委員長、委員は本協会主催の公演、コンサート等に出演できるものとする。

## 2. 運営委員会

- (1) 運営委員会は正・副委員長、運営委員を以て構成し、必要に応じ事務局長も加わり、発言することが出来る。
- (2) 運営委員会は本協会の運営に関する基本的事項について、すべての意志決定を行う。
- (3) 運営委員会は委員3分の2以上の出席があれば成立するものとする。ただしあらかじめ議題を提示し、委任状を得た場合は、出席とみなし運営委員会は成立するものとする。
- (4) 議決は過半数を必要とするが、賛否同数の場合は議長がこれを決定する。
- (5) 運営委員会の議長は、委員長とする。ただし事情によって、副委員長が代行することがある。

(6) 運営委員（正・副委員長を含む）は年額5万円を毎年4月に納入するものとする。

### 3. 企画委員会

- (1) 目的 本協会の公演、製作、運営等について委員長の諮問に答えるものとする。
- (2) 構成 運営委員2名・会員3名・準会員3名
- (3) 任期は別に定めない。
- (4) 委員長の判断により適当な期日に随時開催する。

### 4. 会 員

- (1) 会員を希望する者は志願票及び検定料をそえて等協会に願い出なければならない。
- (2) 会員の選出方法は次の通りとする。
  - イ. 準会員または研究生課程修了者の内より、オーディションを行い選出する。
  - ロ. 運営委員会の推薦により、オーディション又は所定の審査を経て選出する。
- (3) 会員選出についてのオーディションおよび推薦は年1回を原則とし、4、5月頃に行う。
- (4) 会員は定められた規程施行細則にしたがって、本協会主催の公演に出演することが出来る。又会員は研究生の指導にあたる場合がある。
- (5) 会員は本協会に類似した団体の公演等に出演する場合は、運営委員会に申し出て、許可を得なければならない。
- (6) 会員は本協会とは別個に、これに類似した活動を行うことは出来ない。
- (7) 会員は入会時に入会金1万円と会費年額3万円を一括納入、時年度よりは、毎年4月に会費を一括納入する。
- (8) 会員は研究生の講義を聴講することができる。但し、聴講料は1回は（2コマ）を500円とする。

### 5. 準 会 員

- (1) 準会員を希望する者は志願票及び検定料をそえて当協会に願い出なければならない。
- (2) 準会員の選出方法は次の通りとする。
  - イ. 研究生課程修了者の内より、オーディションを行い選出する。
  - ロ. 運営委員会の推薦により、オーディションを行い選出する。
- (3) 準会員選出についてのオーディションおよび推薦は年1回を原則とし、4月頃に行う。
- (4) 準会員は定められた規程施行細則にしたがって、本協会主催の公演に出演することが出来る。又準会員は研究生の指導にあたる場合がある。
- (5) 準会員は本協会に類似した団体の公演等に出演する場合は、運営委員会に申し出て、許可を得なければならない。
- (6) 準会員は本協会とは別個に、これに類似した活動を行うことは出来ない。
- (7) 準会員は入会時に入会金1万円と会費年額2万円（63年度以降）を、次年度よりは毎年4月に会費を一括納入する。
- (8) 準会員は研究生の講義を聴講することができる。但し、聴講料は1回（2コマ）を500円とする。

### 6. 会 友

- (1) 会友は相互の親睦をはかり、併せて本協会の発展に寄与するものとする。
- (2) 会友は、公演の入場料金の割引、研究会、講習会などへの参加、リハーサルの見学、機関紙の配布等の特典を受けることができる。
- (3) 会友は、次の者を以て組織する。
  - イ. 研究生課程修了者で入会を希望する者。
  - ロ. 会員、準会員で本協会を大会した場合は、会友となることを希望するもの。

(4) 会友には、次の役員を置き、任期は2年とする。

イ. 代表者 1名

ロ. 幹事 2名

(5) 事務局は、名古屋オペラ協会事務局とする。

(6) 会友は、入会時に入会金5,000円を一括納入する。

(7) 入会金を納付した者は会友となる事が出来る。

## 7. スタッフ要員

(1) オペラ歌手育成部の課程を修了した者で、本協会の公演にスタッフとして参加希望する者については、運営委員会でその採否をきめる。

(2) 本協会員以外で希望する者については、運営委員会で採否をきめる。

(3) 本協会の公演並びに育成部の授業等について登用するピアノ伴奏者については運営委員会の推薦によって決めるものとする。

## 8. 公 演

### (1) 定期公演

イ. 年1回を原則とし、同じ演目で複数の地区で公演する場合がある。

ロ. 演目は日本オペラとする。

ハ. 出演者の選出方法は次の通りとする。

キャスト 会員中よりオーディション又は運営委員会の推薦によって選出する。

準会員は、その必要に応じて運営委員会の推薦によって選出する。

研究生参加の必要が生じた場合は、特別に運営委員会に図る。

スタッフ 運営委員会にて選出する。

ニ. キャスト、スタッフ共、外部から依頼することがある。

ホ. 入場料金は、徴収するものとする。

### (2) 室内オペラ

イ. 運営委員会が必要と認めた場合に開催する。

ロ. 演目は日本オペラ以外にも、外国のオペラ等を取り上げる場合がある。

ハ. 出演者の選出方法は定期公演に準ずる。

ニ. 入場料金は徴収するものとする。

### (3) 其 の 他

イ. 運営委員会が必要と認めた場合に開催する。

ロ. 一般および青少年を対象とするオペラの普及を目的とした、オペラ教室や歌曲のコンサート等を開催する。

## 9. オペラ歌手育成部

(1) オペラ歌手の要請機関としてオペラ歌手育成部を置く。

(2) 研究生を希望する者は志願票及び検定料をそえて当協会に願い出なければならない。

(3) 研究生受験資格は次の通りとする。

イ. 音楽大学卒業者（応募年度の3月卒業見込者を含む）

ロ. 音楽大学卒業者または音楽専門学校卒業者（応募年度の3月卒業見込者を含む）

ハ. イ、ロの場合と同等の力があると認められた者。（音楽大学3、4年在学中も可）

(4) 教育目標は次の通りとする。

研究生に、オペラに関する教養や、基礎的知識、技術を習得させ、会員として公演に参加し得る有為な人物の育成および、音楽教育界、一般社会に対するオペラの普及、理解に貢献する人物を育

成する。

- (5) 就業年限は2ヶ年とし、授業回数は年間約55回（特別講義等も含む）とする。
- (6) 教育内容は次の通りとし、イ、ロ、ハそれぞれに細目を設けるものとする。
  - イ. オペラ全曲・オペラアンサンブル
  - ロ. 演 技
  - ハ. 講 義
  - ニ. 其 の 他
- (7) 1年目の進級時および2年目の修了時に、進級および修了を認める試験を行う。
- (8) 研究生課程修了者は会員、準会員となるためのオーディションを受けることが出来る。  
(年1回4月頃に実施)
- (9) 修了公演
  - イ. 修了公演は研究生修了時に行うものとし全員参加するものとする。
  - ロ. 参加出来ない場合は修了を認めない。
  - ハ. 演目はオペラ（日本を主とし、外国オペラ等）を主とし、オペラ・アリア及び歌曲の場合もある。
  - ニ. 入場料は徴収することがある。
- (10) 試演会
  - イ. 試演会は育成部長が必要と認めた場合に開催するものとする。
  - ロ. 演目は修了公演に準ずる。
  - ハ. 入場料は徴収しないものとする。
- (11) 研究生が、本協会に類似した団体の公演等に出演する場合は運営委員会に申し出て許可を得なければならない。
- (12) 研究生は本協会とは別個に、これに類似した活動を行うことはできない。
- (13) 研究生は、入会時に入会金1万円と年度授業料10万円を一括納入し、次年度よりは、4月に授業料を納入するものとする。
- (14) 研究生の休学及び復学の扱い
  - イ. 止むを得ざる事情により休学する場合は休学届けを委員長宛に提出するものとする。
  - ロ. 復学する場合も同様に復学願を委員長宛に提出する。
  - ハ. 休学及び復学については下記のように扱うものとし、それ以外は認められない。
    - (イ) 前期期間中に休学の場合  
次年度の前期始に復学（復学時に次年度分授業料10万円を納入）
    - (ロ) 後期期間中に休学の場合  
次年度の後期始に復学（復学時に授業料の半額5万円を納入）

# オペラ歌手育成部内規

## 講 義

1. 修業年限は2ヶ年とする。ただし、4年まで在籍できる。
2. 1年を前期と後期に分け、前期は4月1日より9月30日まで、後期は10月1日より3月31日までとする。
3. 講義は週1回を原則とし、年間55回（特別講義、集中講義、臨時演習を含む）を行うものとする。1回を2講座に分け、1講座90分とする。
4. 授業科目、指導目標、年間指導計画表は別に示す。

## 特 別 講 義

1. 合宿等、特別に行う講義、実習は原則として参加しなければならぬ。その費用は実費徴収する。

## 進級及び修了

1. 進級及び修了試験を受験するためには、原則として、前授業日数の3分の2以上出席しなければならない。
2. 病気、災害、事故等止むを得ない事由により試験を受けることができなかった者は後日追試験を受けることができる。
3. 再試験は行わない。

## 聴 講 生

1. 聴講を希望する者は志願票に検定料を添えて当協会に願い出なければならない。
2. 応募資格
  - イ. 音楽大学卒業者（応募年度の3月卒業見込者を含む）
  - ロ. 音楽短期大学卒業者又は音楽専門学校卒業者（応募年度の3月卒業見込者を含む）
  - ハ. イ、ロ、の場合と同等の力があると認められた者。
3. 選出方法  
運営委員会の書類審査による。
4. 受講科目  
研究生の教育課程の中から希望する科目を選んで受講するものとする。又、合宿に参加することが出来る。
5. 試験の扱い  
研究生に課せられる試験については、参加するが採点の対象とはならない。但し、受講科目の修得証明書を希望する者については、採点の対象とする。
6. 会員、準会員となるためのオーディション  
運営委員会の推薦した者に限り、オーディションを受けることが出来る。
7. 公演のためのオーディション  
同 上
8. 修了公演  
運営委員会が認めた場合には、参加出来るものとする。
9. 検定料、入会金、授業料
  - イ. 検定料 10,000円

ロ. 入会金

受講科目の多少及び期間にかかわらず 10,000円を納入のこと。

ハ. 授業料

聴講希望科目の1コマにつき、1,000円を納入のこと。

ニ. 教材費等の徴収は研究生と同じ扱いとする。

運営委員、会員、準会員、研究生共通遵守事項

1. 入場券の販売については、出演の有無にかかわらず、協力しなければならない。
2. 納入金については、如何なる理由があっても、返金しない。
3. 退会（研究生＝退学）を希望する者は、退会届（研究生＝退学届）を委員長宛提出しなければならない。（送付先は事務局長）
4. 協会員の休会の扱い
  - イ. 止むを得ざる事情により、休会（研究生＝休学）を希望する者は、休会届（研究生＝休学届）を委員長宛に提出しなければならない。（送付先は事務局長）
  - ロ. 会員並びに準会員の休会者の会費納入は半額とする。
  - ハ. 休会は1年を越えないこと。（1年を越える場合は再度休会届を提出すること）
5. 協会員の復会の扱い
  - イ. 復会を（研究生＝復学）を希望するものは委員長宛に復会願（研究生＝復学願）を提出しなければならない。（送付先は事務局長）
6. 本協会の秩序を乱したり、品位を損なう言動があった場合は、運営委員会の協議により、注意又は除名することがある。

以 上

## 相談役に関する内規

(趣 旨)

1. 名古屋オペラ協会は本協会のますますの発展のために相談役の中から次の役職を定めることができる。
  - (1) 会 長
  - (2) 副 会 長

(目 的)

2. この内規によって会長及副会長名古屋オペラ協会に対する指導と助言を遂行するときの地位と立場を保証する。

(設 置)

3. 名古屋オペラ協会がその充実と発展のために指導と助言を遂行するとき、運営委員長は運営委員会の議決を経て、会長及び副会長を委嘱する。

(職 務)

4. 会長及び副会長は運営委員長の了承の上、次に定める各号の職務を遂行することができる。
  - (1) 運営委員会に出席し、所信を述べる。ただし、議決権は有しない。
  - (2) 名古屋オペラ協会の行う各種の事業に参加し、音楽的水準の向上のために指導を行う。
  - (3) 名古屋オペラ協会の発展のために対外的に積極的な活動をする。
  - (4) その他名古屋オペラ協会の発展のために必要な活動をする。

(任期及び終了)

5. 任期は特に定めない。
  - 2) 任期の終了は運営委員会が定める。

附 則 この内規は平成5年4月1日から施行する。



## こんな部屋があれば、音楽はもっと楽しくなる。

いい音を、周囲に気がねなく、存分に楽しんでいただくための快適音場空間。それがヤマハのアビテックス。一世紀以上にわたり音づくりに励んできたヤマハの経験と知識を結集した成果です。空間の制約を感じさせない、コンサートホールのような臨場感をぜひご体験ください。

**おもいきり演奏できる防音効果。**  
ピアノのフォルテの音を普通の会話程度まで抑える優れた防音機能が備わっています。

**耳にやさしい快適音場。**  
音場パネルでバランスのとれた音響特性。自然な響きの快適空間です。

**スイッチひとつでホール音響。**  
最先端のLSI技術を使い、世界の有名ホールの音場を再現できます。

**ユニットタイプとフリータイプを用意。**  
豊富なバリエーションのユニットタイプのほか、思いのままに設計できるフリータイプも用意しています。

**パネル工法でスピード施工。**  
ヤマハ独自のパネル工法により、ユニットタイプで1～2日、フリータイプでも約1週間。

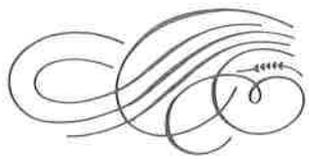
**YAMAHA**

ヤマハ防音室  
**アビテックス**  
YAMAHA SOUND ROOM SYSTEM

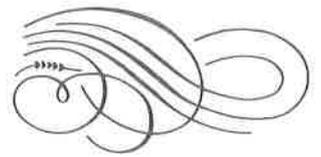
ヤマハ(株)名古屋店

名古屋市中区錦一丁目18-28

TEL(052)201-5151(代) FAX(052)201-5400



芸術は、いつでも、夢をみる。



# KAWAI EX

CONCERT PIANO



本体価格(税抜)9,900,000円

楽譜コーナー



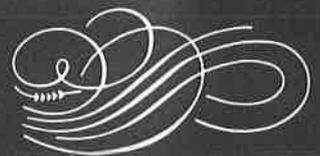
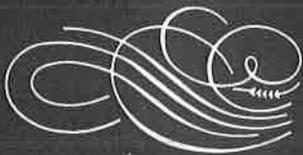
CDコーナー



取扱商品/ピアノ・楽器・楽譜・CD

## カワイ 名古屋 ショップ。

名古屋市中区錦三丁目15番15号 TEL.052-962-3939(代)



---

## 名古屋オペラ協会創立15周年記念誌

---

印刷 平成9年11月20日

発行 平成9年11月30日

発行者 名古屋オペラ協会

〒467 名古屋市瑞穂区瑞穂通り5-16

スタジオあい 名古屋オペラ協会事務局

TEL 052-851-2089 FAX 052-851-2089

印刷 (有)三星印刷

---

名古屋オペラ協会

